

地域と歩んだ就実の軌跡

地域貢献報告書 (第15号)

2022年度

就実大学
就実短期大学

地域と歩んだ就実の軌跡

地域貢献報告書(第15号)

2022年度

就実大学
就実短期大学

ごあいさつ

地域貢献委員長

工藤 季之

大学は教育、研究を本来の使命としていますが、大学の第三の使命として社会貢献すなわち地域社会、経済社会、国際社会等広い意味での社会全体の発展への寄与が求められてきています。それを受けて、本学は『就実ビジョン 120』の中で「地域貢献・社会連携の推進」を重点項目の一つとし、第一に「子育て支援、防災支援、地域交流事業への積極的参加、公開講座や出張講義、卒後研修など、大学の知的資源や技術力を有効活用して、教育研究成果を広く社会に還元する」、第二に「地域の産業界や自治体、他大学との連携による共同研究・共同事業を推進し、地域活性化に貢献する」、第三に「地方創生に資する大学及び各学部の強みや特色を生かした戦略的ブランド事業を展開して、地域と共に輝き、地域から信頼される大学となる」としています。

それを実践するために、本学における社会連携・社会貢献を推進する全学的な組織として、産学官地域連携センターと地域貢献委員会があり、前者は「学術研究や教育研究の活性化によるイノベーションの創出及びその成果の社会還元、産学官連携や地域連携活動の促進並びに地域人材の育成や生涯学習などを通じて、地域社会の活性化や振興に積極的に貢献すること」を、後者は「学術研究の成果を広く社会に還元し、地域に貢献すること」を目的としています。地域貢献委員会では、公開講座等の企画・運営、高大連携等の企画・運営、産官学の連携並びに共同研究の推進、地域の教育支援、学外組織が運営する公益性の高い講座等への協力を主な業務としています。大学主催の公開講座としては「就実公開講座」「地域文化講座」を企画・運営する他、各学部・研究科では学外組織との連携による地域人材の育成・確保、まちづくり等地域の振興に関する活動を行っています。さらに、「就実教育実践研究センター」は地域の健康福祉及び子育てに関する活動を、「就実心理臨床センター」は、地域に開かれた心理相談の場であると同時に臨床心理士養成の教育・訓練施設でもあり、「就実大学臨床薬学教育研究センター」は、地域薬剤師に対する生涯研修として、地域連携教育講座を実施しています。「図書館」では、地域住民を対象とした図書館セミナーにより、地域の生涯学習に貢献しています。「吉備地方文化研究所」は、広く岡山地方文化に関する研究を行い地域文化の発展に寄与するための組織であり、歴史資料講読会など学外者を交えた研究会を実施しています。

本学の社会連携・社会貢献の特色は、地域のニーズに即した取り組みを行っている点、学生の参加を得て行われている点、さらに研究シーズを生かした喫緊の問題を解決することにあります。

今後とも教育、研究の成果をもとに広く社会に貢献していく所存でございますのでご協力の程、よろしくお願いいたします。

目 次

ごあいさつ	1
就実公開講座	7
学科・研究所・センター等主催事業	23
学外組織との連携・協働	39
地域連携・社会連携	83
出前授業	95
講師の派遣	101
各種学外委員会の応嘱	113

就実公開講座

2022年「就実公開講座」

【 前期 】

第1回 6月4日(土) 10:00～11:30

「静止面が動く—絵巻物の表現の可能性—」

講師 人文科学部表現文化学科教授 川崎 剛志

場所：就実大学S101講義室（参加者 27名）

第2回 6月11日(土) 10:00～11:30

平安貴族は「走る」のか —「動きのことば」の日本語史—

講師 人文科学部表現文化学科准教授 岩田 美穂

場所：就実大学S101講義室（参加者 23名）

第3回 6月18日(土) 10:00～11:30

肖像の表現史—初代岡山藩主池田光政を中心に—

講師 人文科学部表現文化学科准教授 浅利 尚民

場所：就実大学S101講義室（参加者 29名）

第4回 6月25日(土) 10:00～11:30

運動の哲学入門

講師 人文科学部表現文化学科教授 松本 潤一郎

場所：就実大学S101講義室（参加者 22名）

第5回 7月2日(土) 10:00～11:30

『源氏物語』の本文の動きと表現世界

講師 人文科学部表現文化学科准教授 瓦井 裕子

場所：就実大学S101講義室（参加者 25名）

第6回 7月9日(土) 10:00～11:30

動いて確認 進化の歴史

講師 人文科学部表現文化学科教授 岡本 悦子

場所：就実大学体育館多目的ホール（参加者 8名）

【 後期 】

第1回 9月3日(土) 10:00～11:30

パーソナルカラーって何ですか？

—あなたの魅力を引き出すファッションのお話とワークショップ

講師 短期大学生生活実践科学科准教授 久保 美沙登

場所：就実大学 S 1 0 1 講義室 (中止)

第2回 10月1日(土) 10:00～11:30

ゲル化剤って何ですか？—ゲル化剤の特長や使い方—

講師 短期大学生生活実践科学科准教授 渡邊 智美

場所：就実大学 S 1 0 1 講義室 (参加者 13名)

第3回 10月8日(土) 10:00～11:30

健康情報って何ですか？—選択と実践を見直して健康生活上昇

講師 短期大学生生活実践科学科教授 大友 達也

場所：就実大学 S 1 0 1 講義室 (参加者 22名)

第4回 11月5日(土) 10:00～11:30

right と light って発音違うんですか？

講師 短期大学生生活実践科学科教授 森安 秀之

場所：就実大学 S 1 0 1 講義室 (参加者 20名)

第5回 11月12日(土) 10:00～11:30

おいしさって何ですか？—うま味の発見とだし

講師 短期大学生生活実践科学科准教授 三宅 統

場所：就実大学 S 1 0 1 講義室 (中止)

第6回 11月26日(土) 10:00～11:30

「『添削』って何ですか？ - 短歌、表現教育の『添削』指導」

講師 短期大学生生活実践科学科教授

場所：就実大学 S 1 0 1 講義室 (参加者 15名)

タイトル 「静止画が動く―絵巻物の表現の可能性―」

人文科学部 表現文化学科 職名教授 氏名 川崎剛志

2年半ぶりに就実公開講座が開催されました。2022年度前期講座は人文科学部表現文化学科の担当で、「動きの表現史」をテーマに5回の講座が開かれました。第1回が本講座で、中世文学専攻の私が担当しました。

糸で綴じた書物や今日の経などの折本とは異なる、卷子本（絵巻物）の特徴として、保存性（絵具が剥がれ難い等）、表現性（横の長さを活用した時間経過や空間的広がり、物語の創出性など）があげられます。

絵巻物という書物のもつ、こうした豊かな情報やメッセージ力は、映画監督でありアニメ演出家でもある故高畑勲氏が、平安末期から鎌倉前期にかけて作られた絵巻物を「十二世紀のアニメーション」と称したほどで、今日の映画やアニメづくりも生かされている、日本の伝統的な表現と言えます（参考：高畑勲「十二世紀のアニメーション―国宝絵巻物に見る映画的・アニメ的なるもの」(徳間書店、1999年)）。

本講座では、平安時代末期の「信貴山縁起絵巻」や鎌倉時代後期に描かれた「春日権現験記絵巻」のいくつかの作品について、その構図、描かれている情景、物語、作者の意図などを解説しました。また、実際に「信貴山縁起絵巻」三巻の複製を紐解きつつ、絵巻に描かれた内容を解説しました。卷子本の周りに集まった約30名の受講生は熱心に聴講され、活発な意見交換も行われました。



平安貴族は「走る」のか - 「動きのことば」の日本語史-

人文科学部 表現文化学科 准教授 氏名 岩田美穂

本講義では、「動き」を表す言葉、すなわち「動詞」に着目し、現代語と奈良時代の言葉とを比較しながら、古代日本語がどのように動きをとらえどのような動詞でそれを表現してきたのかを探った。

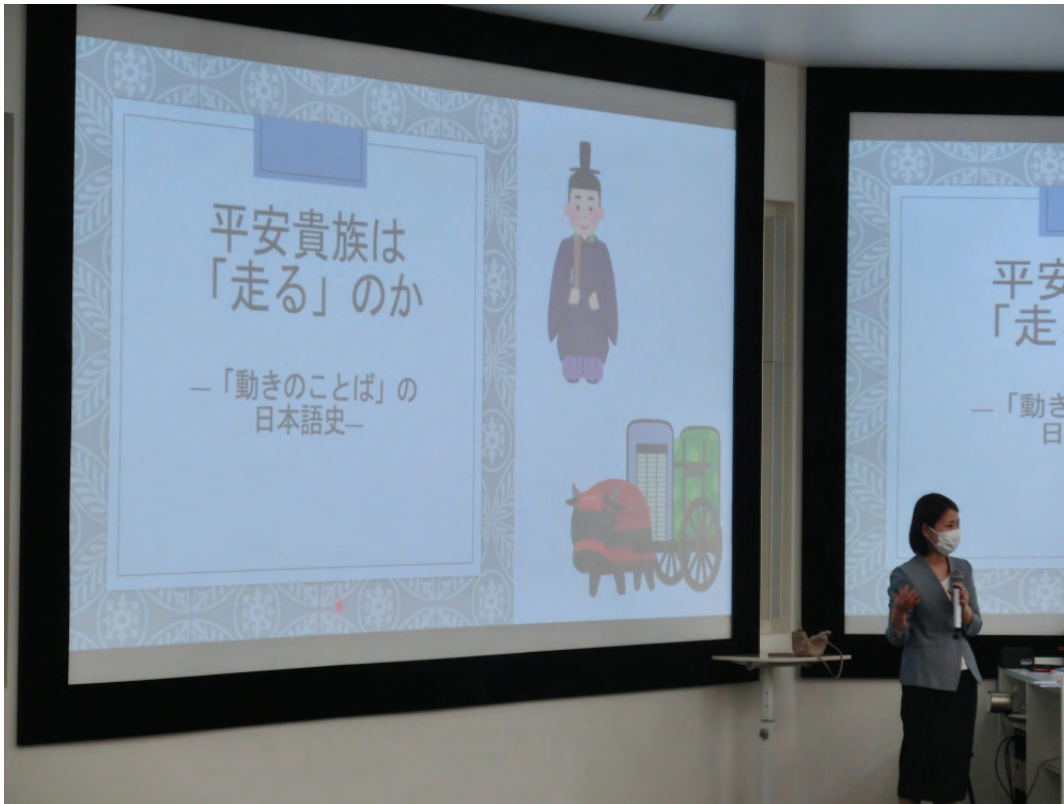
まず、言葉の歴史を辿る上で、忘れてはいけないことは、言葉は「書かれたもの」しか残らないということである。私たちが文献によって知ることができる昔のことばは、当時話されていたことばのごく一部でしかなく、すべてを明らかにすることは不可能である。私たちは、残されたわずかな証拠から、当時の言葉を推測し再構築するのである。

まず、動詞の量はどれくらいあったのか。名詞・動詞・形容詞の3つの品詞について、宮島達夫(編)(1971)『古典対照語い表』(笠間書院)に掲載されている古典語のデータと、国立国語研究所(1987)『雑誌用語の変遷』(秀英出版)に掲載されている現代語のデータとを比較してみると、現代語は名詞が高い割合を占めていること、古典語は形容詞の数が少ないことなどが注目された。動詞の使用率はそれほど大きく変わっていない。また、動詞の延べ語数に占める異なり語数の割合を算出してみると、古典語においてはわずか6%であり、古典語では動詞は同じ語が繰り返し使われており、現代語の方が動詞のバリエーションが豊富であることが示唆された。

次に、試みに、『時代別国語大辞典 上代編』(三省堂)の「あ〜お」の項目に掲載されている動詞を一覧にし、どのような動詞がなくなり、どのような動詞が残ったのかを見てみると、無くなった動詞は342例中174例51%で、現代にもある動詞は342例中168例49%であり、約半数ほどが1000年以上も日本語の中で使われ続けているということがわかった。さらに、現代にもある動詞のうち、形態が変化したものは51例、意味が変化したものは13例であり、それ以外の約30%がそのまま残っている。どういう動詞が残り、どういう動詞がなくなったのかを概観すると、形が単純で基本的(汎用的)な意味を持つ動詞は残りやすいが、複合動詞や接辞を付加した動詞など形が複雑でより意味が限定された動詞は残りにくいとみられる。また、意味の面を大まかに見てみると、無くなった動詞は運動性の動詞は少なく、変化や状態、思考・感情を表す動詞が多く、残った動詞には運動性の動詞が多く、変化や状態、思考・感情を表す動詞は少ないという特徴がありそうである。

最後に、ケーススタディとして、タイトルにある「走る」の語史と、方言に残る古語として「おる」の歴史を簡単にみた。「走る」は上代から存在する動詞であるが、もともとは現代のような「RUN」の意味とは少し違う。上代では、何かが勢いよく動くことを表す言葉で、運動そのものよりも「早いさま」を表す方に主眼があるように考えられる。また、走るのは人間に限らず、水、鮎、雷(自然現象)などに広く用いられている。中古に入ると、人や動物の動きを表す例が多くなり、現代と同じような使われ方がされている。

フロアからは、言葉の変化に関するさまざまな質問がよせられ、今後も若い世代が言葉を変化させ、更に千年後には言葉のありようもまた変わっているのではないか、という受講者とのディスカッションで会は締められた。



肖像の表現史—初代岡山藩主池田光政を中心に—

人文科学部 表現文化学科 准教授 浅利尚民

はじめに

実質的な初代岡山藩主池田光政（1609～1682）は、近世前期を代表する明君として知られているが、生前に製作された肖像画や彫刻などは知られていない。本講座では、光政没後に製作された肖像画と彫刻を時系列に沿って紹介し、どの作品が最も光政の面貌を伝えているのかを解説した。

肖像彫刻

岡山県指定重要文化財 金銅造池田光政坐像（閑谷神社所蔵）

法量は総高 60.2 cm。袖張（最大）75.6 cm。津田永忠によって製作され、宝永元年（1704）に完成した。面貌は、眉毛は毛彫りされ太く弧を描き、両目を細めて目尻を下げ、口角を上げて微笑する。両目の中央部には、小さいながら瞳孔を丸く彫ってあらかわす。両耳は大きく、特に耳朶は厚く造られている。額や目尻に皺は刻まれていないが、丸められた背中や体部からやや前方に突き出された頭部などを考慮すると、藩主を隠居する頃の晩年の姿と推定され、皺などはあらかわさずに理想化された姿で製作されたものと考えられる。

肖像画

①池田光政画像 享保 11 年（1726） 池田継政作（林原美術館所蔵）

束帯、老相で描かれる。光政の孫の池田継政が、夢に現れた光政を描く前の画像。

②池田光政画像 延享 4 年（1747） 池田継政作（林原美術館所蔵）

肩衣袴を着す。池田継政の夢に現れた姿を描いた霊夢像。頬の上に薄く朱をのせている。

③池田光政画像 延享 4 年（1747） 池田継政作 池田光政画像（『池田光政公伝』所収）

②と同様の光政を束帯姿で描いたもの。大学頭の林信充賛。現在は所在不明で写真のみ伝わる。

④池田光政画像 明治時代以降（東京大学史料編纂所）

明治時代以降に③を写したもの。頬（目の下）に痘痕の痕が描かれている。

⑤池田光政画像 江戸時代（「繩武像」所収。林原美術館所蔵）

「繩武像」とは池田家の系図を絵画化したもので、画像自体は③を写したもの。

⑥池田光政画像 江戸時代 池田継政作（常住寺（圓務院）所蔵）

金剛山常住寺圓務院（岡山市中区）は、岡山城西の丸（現在の岡山市市民会館付近）にあった天台宗の寺院で、第 2 代岡山藩主池田綱政の願いによって建立された国家安全のための祈祷所。大正 8 年（1919）2 月 22 日に現在の岡山市中区門田文化町へ移った。

①と同様に老相で耳が大きく、金銅造池田光政坐像（閑谷神社所蔵）を念頭に製作したものと考えられ、②～⑤までとは面貌が異なる。享保期（1716～1736）の作と推定される。

おわりに

金銅造池田光政坐像（閑谷神社所蔵）は、池田光政の面貌を示す最古の肖像彫刻であり、ある程度理想化されてはいるが、生前の光政の面影を最も反映しているものであると考えられる。

運動の哲学入門

人文科学部表現文化学科 職名 教授 氏名 松本 潤一郎

私はフランス近現代哲学・思想を研究している。その観点から「運動の哲学入門」（6月25日開講）と題した講座を行なった。

講座では「動き」を題材に、古代ギリシャから20世紀にかけて、哲学の世界では「動き」をどうとらえてきたのかについて概略を述べた。

まず古代からはゼノンのパラドックス（パルメニデスの主張「存在の不動説」を擁護する立場）をとりあげた。

次に近世から、微分を発明した哲学者ライプニッツによる接線という「無限小量」の析出方法を紹介し、これに対する近代の応答の一つとして、ヘーゲルによる「無限小量」に対する批判的考察（悪無限から真無限への移行）をとりあげた。

そして20世紀に入って、ベルクソンが映画への批判（「映画は偽りの運動である」）やゼノンへの批判を通して「持続」という概念を提示したことを示した。そのベルクソンの思想を或る意味で継承したと言ってよいドゥルーズは、『差異と反復』において、ヘーゲルよりもライプニッツを評価して、具体的運動を実践的に把握する哲学を模索したこと、また、映画を現代の新たな思考の運動であると捉えて『シネマ1：運動イメージ』におけるベルクソンによる三つのテーゼの注釈などを通して映画に対応する哲学の創建を試みたことなどを示した。

猛暑の中での開講であったが、ご参加くださった22名の受講生はメモを取りながら熱心に聴講していた。受講生の皆さんが、世界のとらえかたについて新たな知見を得ることができたのであれば、望外の幸せである。配布された参考文献一覧を参考に、後日、各自が学びを深めてくださればと期待している。

『源氏物語』の本文の動きと表現世界

人文科学部 表現文化学科 准教授 瓦井裕子

2022年7月2日、2022年度前期講座第5回として、『源氏物語』の本文の動きと表現世界」と題した講座を行いました。

まず、現在『源氏物語』ができた当時には本が手書きで写されていたこと、書き写す過程で誤写や改変などが起こって、さまざまな本文をもつ『源氏物語』が生まれたことを説明しました。さまざまな本文をもつ『源氏物語』があるにもかかわらず、現在私たちが手にすることができる『源氏物語』は大島本と呼ばれる一つの本におおくを拠っており、大島本以外の『源氏物語』本文を読むことが難しいことを示しました。本講座では、大島本以外の『源氏物語』に触れてみるという目的のもと、鎌倉時代中期に書写された陽明文庫本という『源氏物語』の本文を読んでいきました。大島本の表現と陽明文庫本の表現とを比べながら、それぞれの本文で登場人物がどう描かれているのかを中心に講師が説明を行いました。



動いて確認 進化の歴史

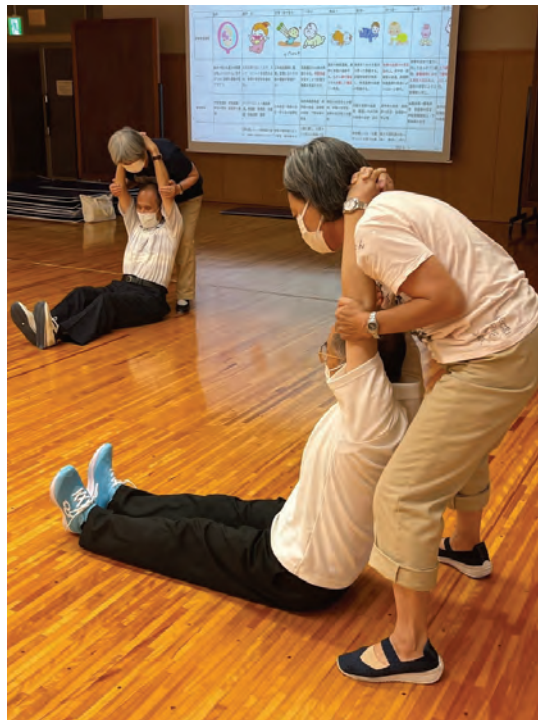
人文科学部 表現文化学科 教授 岡本悦子

2022年度前期公開講座の第6回（7月9日）は、上記のテーマで参加型の講座を岡本が担当しました（会場は体育館1F多目的ホール）。

前半の内容は「進化の歴史を追いながら身体を動かし、どこの筋肉をどのように使うことによって、姿勢が変化してきたのか、その変化によってどのような動きが可能になり、どのように風景の見え方が変わっていったのかを体験する」ワーク、後半の内容は「顔面と全身でコミュニケーションを図る」ワークでした。二足歩行によって両手が自由になったヒトは、道具を作ることができるようになった一方で、顔で敵を攻撃したり、直接顔で食料を探す必要がなくなりました。その結果、顔の筋肉が柔らかくなり、顔面表情を発達させてコミュニケーションに役立てたという知見を踏まえながら、それならばヒトらしく顔面表情や全身のアクションでサインを送ってみようというワークに挑戦していただきました。会場は笑い声に溢れ、リラックスしたムードの中、自然と活発な発言が飛び交う時間になりました。

酷暑で直前に天候が不安定になったことや前日の元首相銃撃事件による社会不安も影響したのでしょうか、当日の参加者数は予定の約半分でしたが、60代から80代のお一人お一人が大変積極的に盛り上げて下さいました。アンケートには「身体中の忘れていた筋肉が動いて新しい体になったような気がします。何か充実感がみなぎってきました！」という嬉しいコメントも届きました。ご参加の皆様有難うございました。





2022 年度就実公開講座

生活実践科学科 准教授 渡邊 智美

1 実施日および内容

2022 年 10 月 1 日 「ゲル化剤って何ですか？—ゲル化剤の特徴や扱い方—」

2 概要

2022 年 10 月 1 日、本学において「ゲル化剤って何ですか？—ゲル化剤の特徴や扱い方—」という題目で公開講座を行った。4 種類の各ゲル化剤について、基礎知識、扱い方や使用用途などを解説した。ゲル化剤には聞き慣れないものもあるため、分かりやすく伝わるように写真や図を使用した。当初はテーマに対する反応に懸念もあったが、「ゲル化剤を使って失敗することがあったが、その理由が分かった」「製菓に役立つ知識を得た」等の感想があった。感想から学びを今後、調理で活かしたいという意欲が見受けられ、テーマに対して興味や関心を少しでも深めていただけたのではないかとと思われる。



健康情報って何ですか？ －選択と実践を見直して健康生活上昇

生活実践科学科 教授 大友 達也

2022年10月8日（土）に就実公開講座健康情報とその実践に関して講演した。
主な講演内容は以下の通り。

日本人の平均寿命は長く、保険制度も充実しており、利用したいときにどこの医療機関も自由に利用できるフリーアクセスとなっている。そのため、患者として診療を受けるうえで、自由に医療サービスを安価で享受できる仕組みになっている。しかし、長期的にみると日本の人口は減少し、患者数が減るため医療機関の経営は厳しくなり、合併や統合、廃業が始まる。短期的にみると、2040年問題といわれる人口構成比率の変化と労働力人口の激減、財源では保険制度の運営の限界が生じているなかで、団塊の世代の医療機関利用が一気に増加する。

このように、様々な問題があり、このまま充実したサービス環境を維持できなくなる可能性が高まっている。

国民ができることとして、メディカルケアを受けるよりは、セルフケアに力を入れる必要が生じており、保険制度の仕組み、健康情報を把握し、適切な健康管理による予防に努めなければならない。

健康情報は、様々な問題があり、1点目は情報を入手でき、判断する力といったヘルスリテラシーの有無、2点目は得た情報を実践し、継続できる行動力にある。前者については、具体的な事例として、正しい情報と誤った情報の例、刻々と変わる健康情報において古い情報のまま更新していない例を挙げた。後者については、1点目は、ひとりで実践する例と具体的に実践に役立つ方法、2点目は関係性のある仲間で、コミュニケーションを行うことで継続力を高める例について触れた。



right と light って発音違うんですか？

生活実践科学科 教授 森安秀之

自分が外国語を学習するとき、また外国の人が日本語を学習するとき、音声に関する内容が最初の壁になることが多いと思います。今回は、この「音がわからない」という状況にはいくつかの違う段階があることを確認しました。

まず音声を出す仕組みを再確認し、人間も基本的に管楽器のように源音を作り途中で空気の流れを修飾して様々な音を出していること、人間であれば口やのどの基本構造は同じなのでたいていの音声は発音できること、音声は大きく母音と子音に分けられそれぞれ音の修飾の仕方が違うことをみました。

次に、外国語学習の第一段階の問題は、自分が普段出している音と違う・使っていない音が使われている場合であり、例として同じrの文字に違う音があてられている言語をいくつか確認しました。第一段階は物理的に音が違うという場合です。

二つ目の段階の問題として、実際の音の違いではなくその言語で同じ音とするのか違う音とするのかの設定が違う（音素が違う）ことがあるということ、日本語と韓国語の例をもとに確認しました。第二段階は音声の違いも関係しますが、「同じか・違うか」と「思っている」という頭の中に作られているフィルターによる場合です。

頭の中のフィルターはこれ以外にもいろいろなところででてくるので、私たちは必ずしも耳に入った通りの音を聞いているわけではないということもいくつかの例で確認しました。

上の二つの問題に加えて、リズムの取り方の違いが聞き取りや発音に影響を与えるということ、英語と日本語の例で考えました。普段日本語を話している人が英語のリズムを難しく感じるのと同じように、普段英語を話している人にとって日本語のリズム単位であるモーラの中には感覚的にわからないものがあるので注意が必要であることにもふれました。

そもそも全く音が違うというのはまだわかりやすく自覚しやすいのですが、頭の中のフィルターやリズムの取り方はその言語での処理が最適になるように調整されて自分の意識とは関係なく自動で働くようになっていきます。日常生活を快適に過ごすためにはなくてはならないものなのですが、ほかの言語を扱おうとするとそのままではうまくいかないことがあります。外国語を勉強するときにはそれに合わないものがあるということ、外国の人と話をするときにはわかりにくいモーラを少し意識して対応するなど、今日お話しした内容がこれからの生活の中でお役に立てば幸いです。



2022年度 後期 就実公開講座「先生、これって何ですか？」 『添削』って何ですか？ - 短歌、表現教育の『添削』指導」

短期大学 生活実践科学科 教授 加藤 美奈子

生活実践科学科による2022年度後期「就実公開講座」について、以下のように当該回担当の地域貢献委員が報告くださいました。再掲し本講座担当回の報告といたします。

2022年度就実公開講座、後期第6回目の講座を開催しました。今回は、就実短期大学生生活実践科学科の加藤美奈子教授より、「『添削』って何ですか？ - 短歌、表現教育の『添削』指導」をテーマに講演を行いました。古典から現代までの和歌、短歌を素材に、歌人による批評や添削の具体例を紹介しつつ、添削の心得等について話題提供されました。受講者は、作者の心の情景や思いを尊重しつつその適切な表現をサポートする添削のあり方等について熱心に聴講されました。



本文・画像引用：「就実公開講座後期第6回 令和4年11月26日 ニュース 一覧 就実大学・就実短期大学」<https://www.shujitsu.ac.jp/news/detail/3891>

（「就実大学・就実短期大学 去華就実」<https://www.shujitsu.ac.jp/>）閲覧：20230131

学科・研究所・センター等主催事業

地域貢献報告書（学科・研究所・センター等主催事業）

主 催	就実大学表現文化学会		
行 事 名	令和4年度表現文化学会学術講演会		
講 師	飯倉洋一（大阪大学名誉教授）		
日 付	2022年11月26日	場 所	本学R601
対 象 者	表現文化学科所属学生・ 一般	参加人数	240名

概要

2022年11月26日、大阪大学名誉教授・飯倉洋一先生をお招きし、「古典文学研究は社会とどうつながるのか」というテーマで講演していただきました。飯倉先生は日本近世文学をご専門とし、主として上田秋成、近世中後期の上方文壇、近世中期の「奇談」書などをご研究されています。また、研究の社会発信にも熱心に取り組んでおられ、Twitter、ブログ、アプリ開発、書籍化もされたシンポジウム「古典は本当に必要なのか、否定論者と議論して本気で考えてみた。」の司会などさまざまな方法で研究成果を社会に還元していらっしゃることも知られています。

今回のご講演では、主にくずし字学習アプリ KuLA についてお話しくださいました。まず、現在にまで受け継がれてきた古典籍は、偶然残っているのではなく、紛失や焼失、戦乱などをくりぬけてきたのであり、それぞれの時代の人々が大切なものとして扱ってきた結果であるというお話がありました。古典籍の多くはまだ翻刻（くずし字などを現代の活字に直すこと）されておらず、貴重な情報がまだ眠ったままになっています。そこで飯倉先生は、国文学研究者や史学研究者などの専門家だけでなく、一般の人もくずし字に親しみ、古典籍に興味を持つ人を増やし、さまざまな人々が協力して古典籍の翻刻を行えるようになればとお考えになったそうです。そうして生まれたのが KuLA でした。2016年に公開されると、Android ランキングで（新着・教育）部門の1位を獲得、2022年2月時点でダウンロード数は19.2万回に上りました。こうした KuLA のヒットにより、飯倉先生は、くずし字を読みたいと考えている人々が想像よりもはるかに多いことに気づかれたそうです。このようなご経験を通し、研究成果を社会に発信するとはどのようなことを熱心にお話しくださいました。発信を通し、社会で古典文学研究をサポートしてもらえるような種をまきたいというお話が印象的でした。ご講演の後の質疑応答ではフロアからの質問が相次ぎ、熱気を帯びた講演会になりました。



地域貢献報告書（学科・研究所・センター等主催事業）

主 催	表現文化学科		
行 事 名	就実表現文化のつどい2022		
講 師	坂手洋二（劇作家）		
日 付	2022年6月18日	場 所	就実大学 T611
対 象 者	就実大学学生と教職員・ 地域の演劇愛好者	参 加 人 数	74名

概要

6月18日（土）に3年ぶりとなる「就実表現文化のつどい2022」が開催されました。今回の講師は劇作家の坂手洋二さん。「経験を作品化すること」というテーマの元、デビット・ヘア作品「悪魔をやっつけろ」のリーディング劇を上演して頂き、会場は74名の観客の皆さんの熱気に包まれました。

アンケートには、「朗読劇の鑑賞は初めての経験だったので声色・表情・立ち居振る舞いの1つ1つが新鮮でした。」「作者の伝えたいこと、感じたことをまるで坂手先生が作者であるかのように読んでいたため、作品に引き込まれていった。どうすれば他者を引き込めるような表現ができるのかとても気になった。」「デビット・ヘアの、体験を戯曲化している内容が圧巻でした。コロナに感染したことからの自分の思い、周囲の状況だけでなく、そこから派生する社会情勢、人間関係、歴史的見解等々、一つのことがかくまでも深く厚く熱い関係性を宿しているのかと、そして、それをかくまでも豊かに表現できるのかと、ただただ、圧倒されていました。それはやはり坂手さんの演技力の賜物かもしれません。」など多数の感激の言葉が届けられました。

本物の演技に触れた貴重な鑑賞のあとは、アフタートークや講師に学生が取材して、学びを深めました。関係の皆さん大変お世話になりました。



地域貢献報告書（学科・研究所・センター等主催事業）

主	催	実践英語学科		
行	事	就実大学英文学会主催学術講演会		
講	師	白井恭弘先生 (Case Western Reserve University 認知科学科教授)		
日	付	2022年11月12日	場	所 S102
対	象	者 一般	参	加 人 数 約150名

概要 演題：外国語学習の科学

2022年11月12日（土）、就実大学英文学会主催学術講演会が開催されました。今年度は第二言語習得論において第一線で活躍されている Case Western Reserve University の白井恭弘先生をお迎えして、第二言語習得論に初めて触れるオーディエンス向けに、わかりやすくご講演いただきました。当日はアメリカ合衆国からリモートでご講演いただきました。

外国語はどのように習得されるのか、そしてその過程において母語、年齢、環境といったさまざまな要因が習得に影響し得ることを科学的な観点からお話いただきました。併せて、外国語を学習するうえでのコツを、先生ご自身の実体験を交えながらアドバイスいただきました。



地域貢献報告書（学科・研究所・センター等主催事業）

主	催	就実大学史学会(総合歴史学科)		
行	事	公開学術講演会		
講	師	戸川貴行(お茶の水女子大学人文科学系准教授)		
日	付	2022年11月12日	場	所
			就実大学E館401教室	
対	象	者	参加人数	50名
概要				
<p>2022年11月12日(土)令和4年度就実大学史学会公開学術講演会「中国古代の音楽と政治」を開催しました。講師は戸川貴行先生(お茶の水女子大学人文科学系准教授)でした。</p> <p>中国古代では「三分損益法」という方法を用いて、現在の「ドレミファソラシ」と同様の音階を算出していました。講演は「三分損益法」の解説から始まり、中国王朝が天や祖先を祀る儀礼で使用した編鐘・編磬などの楽器を紹介いただきました。これらの楽器によって奏でられる儀礼音楽は、中国の皇帝が外交の際に周辺国の君主に下賜するなど、政治の場で利用されてきました。</p> <p>中国の儀礼音楽は遣唐使を通じて日本にも伝えられました。安史の乱によって唐が都の長安を反乱軍に奪われると、皇帝に仕えていた楽人の多くが揚州に逃れました。唐は長安での接待費を節約するために遣唐使の一部を揚州に留め、遣唐使たちは揚州の地で楽人から楽器の演奏方法や舞楽を学んだようです。</p> <p>日本では、中国から伝来した「蘭陵王」などの舞楽を「左方唐楽」といい、朝鮮半島から伝わった「納曽利」などの舞楽を「右方高麗楽」と呼びました。これらの舞楽は武家政権の成立にともない地方にも広がり、平氏が信仰した巖島神社や、源氏が建立した鶴岡八幡宮などで上演されました。後に明治政府は雅楽局を設置し、紅葉山東照宮や近畿地方で活動していた楽人を東京に集めました。現在でも宮内庁楽部と明治神宮で「左方唐楽」・「右方高麗楽」が定期的に上演されています。講演の最後には「蘭陵王」・「納曽利」の映像を上映いただき、中国古代の音楽が現代日本に受け継がれている様子を感じ取ることができました。</p> <p>質疑応答では、来場者から専門的な質問が多く寄せられ、戸川先生にはひとつひとつ丁寧に答えいただきました。講演終了後も来場者と講師の間で活発な議論が続き、活気に満ちた講演会となりました。</p>				
				

地域貢献報告書（学科・研究所・センター等主催事業）

主 催	就実経営学会		
行 事 名	e スポーツチームの運営と資金調達		
講 師	大島丈生氏（株式会社ビッグマンプロジェクト代表）		
日 付	2022年11月4日	場 所	就実大学110周年記念ホール
対 象 者	参加自由	参加人数	60名

概要

就実経営学会では2022年11月4日（金）16:30～18:00、就実大学110周年記念ホール（S館102）において、倉敷市連島に本拠を置くeスポーツチーム「setouchi sparks」運営代表の大島丈生氏（株式会社ビッグマンプロジェクト）をお招きし、「eスポーツチームの運営と資金調達」と題する講演会を開催しました。

国際オリンピック委員会（IOC）が2023年6月にシンガポールで「第1回オリンピックeスポーツウィーク」の開催を決定するなど、eスポーツは老若男女が楽しめる国際的な競技として社会的な地位を固めつつあります。そのような中でsetouchi sparksは、瀬戸内（倉敷市連島）に拠点を置きながら日本全国から優秀なプレイヤーを集め、様々な大会で好成績を収めてきているeスポーツチームです。

本講演会ではsetouchi sparksのこれまでの戦績や所属プレイヤーの紹介に続いて、eスポーツチームの運営および運営にかかる資金の話、特に資金の集め方について、会場に集まった参加者の意見を交えながら議論を深めました。代表の大島氏による地域への想い、起業家としての考え方など、アントレプレナーシップとは何かを肌で感じることでできる講演でした。学生約60名、教員10名程が参加する盛会となりました。



地域貢献報告書（学科・研究所・センター等主催事業）

主	催	就実経営学会		
行	事	名 KOBASHI のイノベーション思考法		
講	師	小橋正次郎氏（KOBASHI HOLDINGS 代表取締役社長）		
日	付	2022年12月12日	場	所 就実大学教室
対	象	者 学生、教員、関係者	参	加 人 数 19名(学生10、教員5、外部4)

概要

小橋正次郎氏（KOBASHI HOLDINGS 代表取締役社長）を招いて、イノベーション・マネジメントの授業を兼ねて就実経営学会を開催しました。まず、同氏より「KOBASHI のイノベーション思考法」と題して、少子高齢化及び生産年齢人口減少下での中小企業を中心とした生産性向上の必要性、そのための新たな価値・顧客創出の必要性、その実現に向けた中小企業と連携した新規事業（スタートアップ）の展開や支援等について話題提供していただきました。

講演後、農作業機や耕耘爪の製造メーカーとして他社にない「KOBASHI のコアコピタンス」は何か、日本の人口減少・世界の人口増加と向き合う中で生まれた「日本の農業機械メーカーから地球を耕す会社へ」という経営理念、それを組織内外の人たちと具現化するための「ビジョンオフィス」の設置、志を同じくする国内外の中小企業の「スタートアップ支援」の具体例、本業との関係などについて、学生および教員と活発な対話が行われ、企業人としての同氏の熱い思いが伝えられました。



地域貢献報告書（学科・研究所・センター等主催事業）

主 催	就実経営学会		
行 事 名	製パン業界の常識を打ち破るおかやま工房・Liaison Project の挑戦		
講 師	河上勝史氏（株式会社おかやま工房常務取締役）		
日 付	2022年12月19日	場 所	就実大学教室
対 象 者	学生、教員、関係者	参 加 人 数	19名（学生10、教員5、外部4）

概要

河上勝史氏（株式会社おかやま工房常務取締役）を招いて、イノベーション・マネジメントの授業を兼ねて就実経営学会を開催しました。

まず、同氏より「製パン業界の常識を打ち破るおかやま工房・Liaison Project の挑戦」と題して、おかやま工房のパン作りのコンセプト（顧客ターゲットと提供価値）、従来の長時間労働と低収益のリテールベーカリー特有の問題の解決方法、社員の働き甲斐や自律性の引き出し方、開業支援の目的と支援の仕組み、将来のパンビジネスと海外展開について、話題提供していただきました。

講演後、店内で工房（窯）を6つに分けている意図、生産性を高める工夫、接客の重要性、開業支援研修者の属性、開業支援を担当するスタッフの特徴等について、学生および教員と活発な対話が行われました。



地域貢献報告書（学科・研究所・センター等主催事業）

主 催	就実経営学会		
行 事 名	日本証券業協会出前講座		
講 師	今川 和亮（いまがわ かずあき）氏（金融・証券インストラクター）		
日 付	2023年1月19日	場 所	就実大学教室
対 象 者	学生、教員、関係者	参 加 人 数	10名（学生8、教員2）

概要

日本証券業協会出前講座をお願いして、金融知識と証券業協会についてのキャリア教育を実施しました。

3限 「社会に出る前に知っておきたいマネーの基礎知識」

4限 「証券業界、証券市場って何だろう」

3限は大学生として知っておくべき金融知識を学びました。特に金融トラブルや詐欺などの具体的な案件などにも言及していただき、具体的に気をつけるべき点をイメージできるようになりました。

4限は証券業界の果たす役割を学びました。学生は2年が多く、将来の職業選択への考えがまだ固まっていない時期でもあり、具体的に証券業界、金融業界で働くことを思っていない人が大半ですが、知識を得ることや直前まで取り組んでいたインターンシップで触れた社会人として働く姿の一端が感じられた講義となりました。

受講後、講師の今川先生と受講生で記念撮影



地域貢献報告書（学科・研究所・センター等主催事業）

主 催	薬学部 薬学科（薬学部公開講座委員会）		
行 事 名	令和4年度 就実大学薬学部地域連携教育講座		
講 師	第1回 神谷 政幸 先生（日本薬剤師会） 第2回 伊原 千晶 先生（京都先端科学大学 准教授） 第3回 流石 学 先生（株式会社メデュアクト 代表取締役） 森 秀治 先生（就実大学大学院 医療薬学研究科長） 石井 宏和 先生（岡山県警科学捜査研究所 研究員） 森内 葉子 先生（清水病院 薬剤課主任）		
日 付	第1回 令和4年5月8日（日） 第2回 令和4年11月20日（日） 第3回 令和5年2月19日（日）	場 所	本学 S102 （第1回はオンライン開催）
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、一般	参 加 人 数	第1回 103名 第2回 76名 第3回 77名
概要			
<p>第1回講座は、日本薬剤師会・日本薬剤師連盟副会長の神谷 政幸先生より、「医療を取り巻く環境と薬剤師」という題目で、9:30 から 12:30 まで行われた。</p> <p>講演では、日本における薬剤師の歴史から始まり、現在の薬剤師の置かれている現状や今後、薬剤師に求められていることなどについて述べられた。在学生も多く参加していたこともあり、在学生1年生～6年生のどの学年でもわかるよう、優しくお話いただいた。現役の薬剤師だけではなく、薬剤師の卵にとっても、現在の薬剤師の置かれている厳しい状況だけではなく、薬剤師のやりがいについてお話を聞くことができ、モチベーションアップに繋がる講演であった。</p> <p>第2回講座は、京都先端科学大学人文学部心理学科准教授の伊原 千晶先生より、「対人援助職（Helping Profession）としての薬剤師～コロナ禍におけるこころのケア～」という題目で、9:30 から 12:30 まで講演が行われた。</p> <p>臨床心理学の観点から、薬剤師が身に付けておくべきメンタル支援の知識や方法についてお話があった。薬剤師が真の対人援助職となるために必要なことや、その対応がリスクマネジメントにもつながることが分かった。</p> <p>第3回講座は、「薬剤師のキャリアパス」をテーマとし、2部構成で行った。第1部は株式会社メデュアクト 代表取締役・株式会社四国水族館開発 代表取締役で薬剤師であり、中小企業診断士・診療情報管理士の流石 学先生より、「薬剤師の新しいキャリアデザイン戦略」のご講演。第2部は本学医療薬学研究科長の森 秀治先生を座長として、「キャリアパス～大学院で磨く・高める・創る～」をテーマとし、本学医療薬学研究科修了生であり、岡山県警科学捜査研究所 研究員の石井 宏和先生、同じく本学医療薬学研究科修了生清水病院 薬剤課主任の森内 葉子先生より、薬剤師及び研究者としてのキャリア形成や職能の向上を目的としての大学院での学びについてご講演いただいた。</p>			

地域貢献報告書（学科・研究所・センター等主催事業）

主 催	G B A（学生ボランティアグループ）		
行 事 名	就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～（対面） 就実やんちゃキッズYouTube（就実 ch）		
講 師	G B Aのメンバー		
日 付	2022年9月13日、14日 2023年1月30日、2月6日、7日（対面） 2022年3月～月1、2回 アップロード（就実 ch）	場 所	E館101 模擬保育室 YouTube の就実 ch
対 象 者	未就学児と保護者（対面） 乳幼児、保育関係者（就実 ch）	参 加 人 数	各日10組（対面）

概要

2022年9月13日、14日、2023年1月30日、2月6日、7日に、G B Aが「就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」を対面で開催した（図1、2）。対面での開催は、2019年以来、3年ぶりとなった。新型コロナウイルス感染予防の観点から、各日未就学児と保護者の10組限定、予約制、時間も1時間と制限を設けての開催となった。学生達にとっては初めての対面開催となり、喜びを胸に、リハーサルや準備を入念に行った。2019年まで本学アリーナで開催していた、100名以上の参加者の大規模な就実やんちゃキッズとは違い、小規模開催とはなったが、参加者からは、学生や教員への感謝や労い、子どもとの関わりに関するお礼や学生への激励、プログラムに楽しく参加する子ども達の様子に関する声、「就実やんちゃキッズに参加することで良い気分転換になった」「子どもが学生と楽しく過ごす姿を見て成長を感じた」などの好意的な感想をいただいた。学生、教員共に、子どもと接する楽しさや充実感、子育て支援事業としての活動の手ごたえを感じる事ができた。

また、新型コロナウイルス感染症の流行に左右されない新たな試みとして、2022年3月に「就実やんちゃキッズ YouTube」を開設し、月1～2回ペースで就実 ch へアップロードしている。再生数の多い動画では800回を超えている（図3）。YouTubeは世界中のどこからでもアクセスできるため、子どもや保護者、保育関係者に向けてオンラインを通して G B A の活動を発信することで交流が深まり、参加学生は達成感を得られ、将来、学生が卒業しても過去の自分の活動を振り返る手段ともなり得る利点がある。

今後もこれらの活動を継続し、学生の意識向上や活動の安定化を目指していく。



図1




図2



図3

なお、G B A（Girls and Boys Be Ambitious の略、以降 G B A と記す）とは、本学幼児教育学科の子育て支援を目的とした学生ボランティアグループで、2022年度で結成17年目を迎えた。

地域貢献報告書（学科・研究所・センター等主催事業）

主	催	生活実践科学科		
タ	イ	トル	ヘルスシフト1000年時代の人生戦略	
実	施	者	株式会社ケーズ代表 伊藤和之	
日	付	2022年12月7日	場	所 就実大学S館 101教室
対	象	者 一般	参	加人数 65名
概要（本文・写真・図等）				
<p>12月7日に生活実践科学科主催の講演会を実施した。講師は、伊藤和之先生で講演テーマは「ヘルスシフト 1000年時代の人生戦略 ダイエットをはじめとした世の中にはびこる間違いだらけの健康法とは」である。</p> <p>講演内容は題名に記載のとおり、ヘルスシフト 1000年といった聞いたことのない斬新なもので、代々続く世代のサステナブルを意味している。これは次の世代につなげていく健康文化を今の世代がしっかりと築きあげなければならないといったことを意味しており、今できることを継続することの難しさと、その重要性を詳しく解説している。</p> <p>具体的には、食べる方法や、食品の選び方、ダイエットや運動など、健康に必要な最新情報と従来の誤った情報と照らし合わせて解説し、運動面では、簡単に実践できる運動を教室内で実践し、受講者に体験する機会を設けた。</p> <p>これまで意識していなかった一般的な情報の誤り、認識の必要性を改めて知る機会の提供となっているほか、健康のための実践の継続力については各家庭の文化となるように定着するためには、人間の思考そのものに問題があったことを指摘し、考える機会を得た。こうしたアドバイスは、大きな収穫になったと言える。会場には本学学生のほか、様々な年齢層の方々が受講した。</p>				
				

地域貢献報告書（学科・研究所・センター等主催事業）

主 催	就実大学心理臨床センター		
行 事 名	公開研修会（就実事例検討会）		
講 師	甲南大学 高石恭子先生		
日 付	2023年2月23日（対面）	場 所	B館304室
対 象 者	地域の臨床心理専門職および訓練生（対面）	参 加 人 数	23名（対面）

概要

2023年2月23日（祝）に就実大学心理臨床センターが主催し、「公開研修会（就実事例検討会）」を開催した。講師には学生支援や子育て支援の第一人者である甲南大学の高石恭子先生にお越しいただいた。本年度は、新型コロナウイルス感染症予防のための対策を十全に講じながら、心理専門職養成に必須である対面での事例検討会を対面方式で行った。この公開研修会は、本学心理臨床センターの地域貢献活動の一環として、岡山エリアの地域の若手心理臨床専門職を対象とした、卒後教育、心理専門職としてのより専門的な学びを深める機会を提供することを目的としている。そのため、遠方在住の第一人者の講師をお呼びし、事例検討会を行うことで、岡山エリアの心理臨床専門職全体のレベルアップに寄与することを目指している。

当日は、若手の心理専門職が事例提供者となる事例検討を行い、活発な議論を行った。感想として、対面形式で事例検討を行い、講師の先生の貴重なコメントを含めた多様な視点に触れることで、自分の臨床を振り返り活かす視点を得られたという好意的な感想をいただき、本学心理臨床センターの地域貢献としての意義を確認することができた。

今後も継続的に公開研修会を行い、心理臨床センターの地域貢献を通して、本学が岡山エリアの心理専門職養成の中核拠点となることを目指したい。



地域貢献報告書（学科・研究所・センター等主催事業）

主	催	就実大学・就実短期大学図書館		
行	事	就実大学・就実短期大学図書館セミナー		
講	師	薬学部附属薬局 薬剤師 柴田隆司		
日	付	2022年10月29日	場	所 図書館 AV ホール
対	象	者 一般	参	加 人 数 31名
概要				
<p>新型コロナ禍で開催がしばらく中止されていたが、2年ぶりに開催された図書館セミナーで「地域医療における薬局の役割—経緯と実際の対応—」のテーマの下、薬局薬剤師の立場から地域医療について概要を示した。</p> <p>戦後から人口構成比が変化して超高齢化社会に突入している。さらに高齢者は基礎疾患を有する割合が高く、高齢者の医療負担は65歳以下の約3倍である。労働人口比率の減少から医療費が切迫してくるのはやむを得ない。厚労省は医療の効率化を求め、病院の規模別による役割分担、医院・診療所の位置づけ、健康保険制度の見直し、介護保険制度の新設など同時並行的な改革を進めている。効率化を求めると、高度急性期・急性期病院の減少、回復期施設の増加、慢性期施設の減少を求めている。状況としては、患者が急性期を脱したら回復期施設への転院、そして自宅療養への流れが形成された。自宅が医療現場となったのが今の状況だ。しかし、自宅では手厚い医療体制が不可能だ。医師による訪問診断、看護師の訪問看護、薬剤師による薬学的管理が求められている。</p> <p>薬剤師としては、地域の住民に対してどのような活動をすべきか。</p> <p>①医療・介護の相談窓口 → 生活支援としてのファーストアクセスの確立 ②セルフメディケーションの推進 → 健康維持、介護予防を目的とした活動 ③在宅、外来医療における適切な薬物療法の実施 → 医療、介護などへの貢献。在宅医療の場合、薬物治療以外に患者に関する情報共有が求められ、多職種連携が必要不可欠となる</p> <p>高齢者の生活の質の維持として、予防という観点も重要であり、介護状態に陥らないように、生活を改善する必要がある。健康な状態と介護が必要な状態との中間であるフレイルという状態が注目されている。このフレイルの時期は運動や食事、社会生活参加などにより、いわゆる健康な状態に戻ることが可能である。各自治体ではフレイル対策を実施しており、薬局がそのフレイル患者の発見施設ともなっている。</p> <p>地域医療への貢献には、薬局薬剤師の今までの業務に、病院薬剤師が求められている業務をも実施できることが求められている。以前には行われていなかった注射混合業務はその一例だ。薬学部の教育期間の延長(4年制から6年制に移行)により、育った薬剤師は一通りの業務に対応出来る教育を受けたことになった。</p> <p>地域の方々には、役割が増えた薬剤師を意識していただき、健康相談や薬物療法への参加、信頼できる薬剤師を探していただき、いわゆる「かかりつけ薬剤師」でなくてもよいので、相談者としての薬剤師を探していただき、ご自身の健康維持を考えるきっかけとして頂きたい。</p>				



地域貢献報告書（学科・研究所・センター等主催事業）

主	催	就実教育実践研究センター (就実子育てアカデミー実行委員会)		
行	事	親子ふれあいタイム		
講	師	大学・短大教員 学生ボランティア等		
日	付	令和4年5月14日開始	場	所 対面(おもにE館模擬保育室)
対	象	者 0歳～小学生	参	加 人 数 毎回約10名程度

概要

1 実施日および内容

不定期開催 子ども・保護者対象のミニ講座や、学生による子どもとの交流

2 成果等：

本事業は就実教育実践研究センターが地域のNPO、学校、保育所、町内会、企業、行政と協働して運営している「就実子育てアカデミー」の事業である。

一昨年度・昨年度は、新型コロナウイルス感染症流行によりオンラインでの講座を実施していたが、今年度から対面開催が可能となった。

講座募集について、センター員に広く周知したせいか、多くの講座が開催でき、延べで、79組、123名のお子さんの参加があった。今年度新しい試みとして、「手作りおもちゃで遊ぼう」では、学部1年生の授業とコラボレーションを行った。学生が乳幼児の様子を観察することができ、理論と実践の往還の場となった。

講座タイトル	実施日	申し込み組数	参加子ども人数
凧を揚げよう（田中修敬・原奈津子・初等学生）	5月14日	5組	7名
今日はパパにプレゼント（飯田智行・初等学生）	6月18日	6組	8名
七夕飾りを作ろう！（小西淳子・小林佐知子・初等学生）	7月2日	11組	19名
ようこそ魔法学校へ（福井広和・初等学生）	8月9日	8組	12名
ミニツクかけっこ教室（森村和浩・教育学部、幼教学生）	10月1日	19組	31名
魔法の美容師さんに変身（藤田知里・初等学生）	11月5日	9組	14名
サンタさんとクリスマス飾りを作ろう（初等学生）	12月3日	10組	18名
手作りおもちゃで遊ぼう（小西淳子・初等学生）	12月6日	5組	5名
親子でエンジョイ！防災キャンプ（長田健一・初等学生）	12月10日	2組	4名
手作りおもちゃで遊ぼう（小西淳子・初等学生）	12月13日	4組	5名

注）幼児教育学科との共催講座をのぞく。

今年度は、2月下旬～3月にも開催予定の講座がある（担当・松本希）。

なお、本事業は岡山県備前県民局令和4年度おかやま子育てカレッジ地域貢献事業費補助金採択事業である。

学外組織との連携・協働

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	岡山県女子体育連盟（助成：公益財団法人福武教育文化振興財団）		
タ イ ト ル	共に踊る～お互いの存在を認め合うインクルーシブダンス（岡山県女子体育連盟第6回実技講習会）		
実 施 者	岡山県女子体育連盟（表現岡本・幼教松本）・ベストプレイス（埼玉のインクルーシブダンスグループ）		
日 付	2022年7月2日	場 所	岡山ふれあいセンター
対 象 者	岡山県内学校関係者・障がい者支援団体・当事者家族	参 加 人 数	58名

概要（本文・写真・図等）

岡山県女子体育連盟は2012年4月に発足。就学前教育・小学校・中学校・高等学校・大学・社会体育が連携をもち、生涯を通じてダンスやスポーツに親しんでいくという生涯体育の視点から、岡山県の学校体育と社会体育への貢献を目的とする持続可能な活動を目指して立ち上げた組織である。

県連盟では昨年度2月に全国ダンス指導者セミナーを主催したが、その際にもこのインクルーシブダンスコーナーをオリジナル企画として設けた。内容は大変好評であったもののオンライン講習だったため、本年度は対面の講習を企画した。ゲスト講師として招いたベストプレイス主宰者竹中氏は、当事者との身体を通した関係性をアーティストックに引き出し、演出できる人材で、現在福祉や教育関係のみならず、舞台芸術や学術分野からも注目されている。参加者は岡山県内の学校関係者（特別支援学校を含む）、障がい者支援団体、当事者とその家族等58名であった。

さまざまな特性を持つ人たちが共生する社会においては、当事者を支援するというスタンスではなく、支援者が当事者の困り感と自支援者側の困り感を理解した上で、ともに尊重し合ったコミュニケーションをとれることが重要である。一人ひとりそれぞれ違う「人」が一緒に踊るインクルーシブダンスの世界観を、岡山県内に広く発信し、豊かな社会の実現に寄与したい。




地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	主催：岡山県現代舞踊連盟/岡山県/（公社）岡山県文化連盟/おかやま県民文化祭実行委員会 共催：岡山市/岡山市芸術祭実行委員会/（公財）岡山文化芸術創造 後援：岡山県教育委員会/岡山市教育委員会		
タ イ ト ル	創立 20 周年記念 Dance Performance 2022 ～今を描く～		
実 施 者	岡山県現代舞踊連盟会員（表現岡本顧問）及び近県舞踊家		
日 付	2022 年 11 月 13 日	場 所	百花プラザ多目的ホール
対 象 者	近県現代舞踊愛好家	参加人数	200 名

概要（本文・写真・図等）

2002 年に設立された岡山県現代舞踊連盟は 2005 年の岡山国体、2010 年の岡山国民文化祭を担い、以降も作品発表だけにとどまることなく、国内外の一線の表現者を招いたワークショップや鑑賞教育を取り入れて研鑽を積んできた。

本年度は連盟設立 20 周年を記念した公演を企画した。県内と近県の舞踊家に加え、岡山県バレエ連盟作品や就実大学・岡山大学の学生作品もエントリーした。残念ながら就実大学作品は、前日に出演者にコロナ陽性が判明し出演を見合わせるようになったが、地方では鑑賞機会の少ない現代舞踊の競演にコロナ禍にも関わらず多くの観客が動員できた。




第 20 回おかやま県民文化祭君たちの未来へ！プログラム
第 60 回岡山市芸術祭企画提案事業

岡山県現代舞踊連盟創立 20 周年記念

Dance performance 2022 ～今を描く～

出演者
KAZUMI Dance Studio Luminous
河合 史菜
武内 浩一
武館 綾夏
道満 智子
森 真保
岡山県バレエ連盟（賛助出演）
岡山大学ダンス部
森本 智子



Dance performance 2022

11 月 13 日 sun

百花プラザ 多目的ホール（岡山市東区西大寺南 1 丁目 2-3）
開場 14:30 開演 15:00 前売 1500 円 / 当日 2000 円 幼児もおひとり様 1 枚のチケットが必要です
お問い合わせ ☎090-6414-1508 メールアドレス kazumi.dsl@icloud.com（開野）

主催：岡山県現代舞踊連盟/岡山県/公益社団法人岡山県文化連盟/おかやま県民文化祭実行委員会
共催：岡山市/岡山市芸術祭実行委員会/公益財団法人岡山文化芸術創造
後援：岡山県教育委員会/岡山市教育委員会

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主	催	岡山県女子体育連盟		
タ	イ	トル	「岡山市民体操」と「防災ダンス」（令和4年度第1回研修会）	
実	施	者	岡山県女子体育連盟（表現岡本・幼教松本）	
日	付	2022年12月4日	場	所 就実大学体育館多目的ホール
対	象	者	参加人数	30名
		連盟会員及び運動指導者、学生		
概要（本文・写真・図等）				
<p>岡山県女子体育連盟は2012年4月に発足。就学前教育・小学校・中学校・高等学校・大学・社会体育が連携をもち、生涯を通じてダンスやスポーツに親しんでいくという生涯体育の視点から、岡山県の学校体育と社会体育への貢献を目的とする持続可能な活動を目指して立ち上げた組織である。</p> <p>この実技研修会の講師は岡山市の要請により「岡山市民体操」や「防災ダンス」を創作した岡山大学講師酒向治子氏。健康や防災といった要素から構成された楽しい振り付けで、参加者は楽しみながら学ぶことが出来た。この経験をそれぞれの現場に持ち帰って地域の健康や防災に役立ててほしいと願っている。</p>				

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	DANCE ALIVE 実行委員会		
タ イ ト ル	DANCE ALIVE 2023（コンテンポラリーダンスの上演）		
実 施 者	岡山広島に在住するコンテンポラリーダンサー作者8名、出演者11名 （表現 岡本・実行委員）		
日 付	2023年1月28,29日	場 所	倉敷物語館多目的ホール
対 象 者	中四国からの鑑賞者	参 加 人 数	58名（人数制限）

概要（本文・写真・図等）

「DANCE ALIVE」は、社会人になっても身体表現の創作に挑み続けられる場の創出と支援を目的に立ち上げられた岡山発の活動である（岡山県立大学新山順子先生代表）。これまで岡本は実行委員会のアドバイザーとして参加してきた。コロナ禍により発表活動が休止されていたが、この度3年ぶりの開催となった。この度の公演ではやがて社会人になる現役大学生に対しても門戸を開いたことにより、就実大学身体ゼミ学生の出品に繋がった（今回の現役学生の参加は岡山大学と就実大学のみ）。学生と社会人が協働して舞台空間を作り上げ、8作品とトーク&インプロ、アフタートークの場が設けられたこともあり、非言語と言語表現をつなぎ理解を深める場ともなった。出演者や鑑賞者からは「各作品の個性豊かな身体表現の形に触れ、またその作品の成立について交流を通して学ぶことができた」とのコメントが届いた。表現の成立や創作の過程を理解することで鑑賞の力は育ち、そこで培われる力は他者への理解を深めることにつながると考える。地域における創造的な人間の育成支援活動を継続していきたい。



地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	岡山県、岡山市、一般財団法人自治体国際化協会 (CLAIR)		
タ イ ト ル	Communicative Activities for the Language Classroom		
実 施 者	D. タウンゼンド		
日 付	2022 年 11 月 15 日	場 所	(オンライン)
対 象 者	外国語指導助手と日本人 外国語担当教員	参 加 人 数	154 名
概要（本文・写真・図等）			
<p>語学指導に関する知識・指導技術等への理解を深めるためのスピーチを行った。</p> <p>1989 年以來日本の文部省は、若者の英語力を向上させるために「コミュニケーション」を推進してきた。残念ながら、なかなか進歩していない。この進歩を妨げてきたいくつかの重要な要因を紹介した。コミュニケーション英語を向上するためにクラスで簡単に使用できるいくつかのアクティビティを実演した。</p> <p>最後に、日本の英語教育の場で働きたい参加者にアドバイスと情報を提供した。</p>			

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	人文科学部総合歴史学科・岡山市高島公民館		
タ イ ト ル	「備前国府周辺を歩く」		
実 施 者	苅米一志（総合歴史学科）・高島公民館職員 他		
日 付	2022年10月1日	場 所	高島公民館周辺
対 象 者	大学生・中学生	参 加 人 数	20名

概要（本文・写真・図等）

就実大学「実に就くプロジェクト」の一環として、地域の史跡を探り、その内容を観光マップとして作成・公開する事業を行なった。

10月1日（土）13:00 JR高島駅に集合し、就実大学生10名、高島学区中学生10名の参加という構成で、史跡の見学を開始した。まず、幡多廃寺跡の塔礎石を見学し、引率者（苅米）による説明を行なったのち、高島公民館に移動して、地区全体の歴史と史跡の説明を行なった。

こののち、国庁神社、惣社神社、脇田山安養寺、賞田廃寺跡、湯迫山浄土寺を巡り、それぞれ見学と説明を行なった。各所で撮影した写真は、絵画化して観光マップのアイコンとして使用し、また各史跡の説明文も大学生が執筆して、1枚もののマップとして公開する予定である。



備前国惣社神社における史跡説明の様子

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催 者	岡山市立御津公民館		
タ イ ト ル	「第11回 御津防災キャンプ」参加		
実 施 者	岡山市立御津公民館・就実大学社会教育主事課程（担当：中塚朋子）		
日 付	2022年11月26日	場 所	岡山市立御津公民館
対 象 者	幼児・児童・保護者 地域住民	参 加 人 数	参加者多数

概要（本文・写真・図等）

2022年11月26日（土）に、社会教育主事課程の授業（社会教育演習Ⅰ・Ⅱ）の一環として、岡山市立御津公民館で開催された「御津防災キャンプ」に参加しました。御津防災キャンプは、幼児・児童とその保護者を対象とした、楽しみながら防災について学ぶイベントとして実施されています。参加者は、各ブースで防災学習を行いながらシールを集め、最後に防災グッズを獲得します。就実大学社会教育主事課程の大学生ブースは、2022年度で3度目の出展となりました。

本年度は2つのグループにわかれ、①「新聞紙で作る防災スリッパ」という災害時に備えて新聞紙でスリッパをつくるブースと、②「学ぼう！遊ぼう！ぼうさいつりビンゴ」という釣りをしながらクイズやビンゴを組み合わせたゲームで防災道具について学ぶブースを設けました。

「新聞紙で作る防災スリッパ」のブースでは、災害時に避難所などでも活用可能な足元を守る道具として、新聞紙で作る防災スリッパの折り方を、学生たちが参加者に丁寧に教えていました。参加した子どもたちは、キャラクターや乗り物などに装飾した新聞紙スリッパを嬉しそうに履き、障害物のうえでは、その体感を興味深そうに感じながら歩く様子がみられました。

また、「ぼうさいつりビンゴ」のブースでは、災害時や減災のために必要な道具をあてるクイズを9問用意し、それにあてはまる道具のイラストを魚に見立てつりを行い、3つ揃うとビンゴとなるゲームを企画しました。最短時間を競い合い、ランキングをボードに掲示するなど工夫したため、参加者がより熱中するしかけとなったようです。防災クイズは、準備の段階で消防局職員からの助言を受け、災害時にあやまった行動を見直す問題も含まれており、教育効果が高いものとなりました。一度ゲームを体験したあとに、再度参加する子どもたちもみられ、防災に関する知識について、遊びながら楽しく学ぶ様子が見られました。

学生たちは、参加者である子どもたちのほか地域住民と共同した活動を通して社会教育活動の意義について考える機会となったようです。後日、御津防災キャンプ参加に関するスライド発表と、当日の様子を撮影した動画編集によるまとめも行いました。



地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	岡山市立御津公民館		
タ イ ト ル	多文化カフェの参加と講座「やさしい日本語を知ろう」の参加		
実 施 者	岡山市立御津公民館・就実大学社会教育主事課程（担当：中塚朋子）		
日 付	2022年6月26日	場 所	岡山市立御津公民館
対 象 者	外国人在住者、地域住民、日本語教師、本学学生	参 加 人 数	地域住民 30名程度 学生 13名・教員 1名

概要（本文・写真・図等）

2022年6月26日（日）に、岡山市立御津公民館において、社会教育主事課程課目である生涯学習支援論Ⅰと社会教育演習Ⅰの合同学外授業を実施しました。出席した学生は、合計13名です。

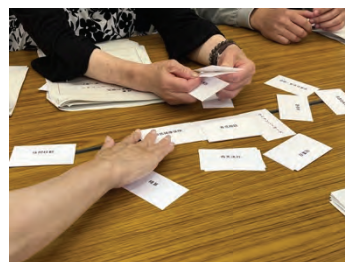
11時30分に御津公民館へ到着後、多文化カフェの準備を共同で行いました。12時から、ズッキーニ入りのカレーライスやフライドポテトをいただきながら、学生たちは日本語教室に参加している外国人在住者や地域住民を交えて懇談しました。13時から、御津公民館の主催講座「やさしい日本語を知ろう」に出席しました。本講座は、昨年度開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止になったという経緯があります。当初、参加者は学生や地域の民生委員や児童委員の方々が予定されていましたが、多文化カフェに参加していた外国人の方々も一緒に参加することになり、より実践的な講座となりました。

講師は、岡山外語学院の中島正恵先生で、就実女子大学の卒業生です。外国人にわかりやすく情報を伝える方法を、教材を使い、ペアワークやグループワークを行いながら学習しました。外国人の方々と雑談を交えながら、生活における言葉の使い方について話し合う機会となりました。

14時30分の講座終了後も、帰りの電車の時刻まで余裕があったため、学生たちは外国人の方々と楽しそうに会話をしていました。今回の講座参加を通して、社会教育活動の実際を学ぶ機会になったと思われます。



多文化カフェ参加の様子



「やさしい日本語を知ろう」参加の様子

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	岡山市立御津公民館		
タ イ ト ル	多文化カフェの参加および 日本語教室で学ぶ外国人在住者へのインタビュー・ワークショップ		
実 施 者	岡山市立御津公民館・就実大学社会教育主事課程（担当：中塚朋子）		
日 付	2022年11月27日	場 所	岡山市立御津公民館
対 象 者	外国人在住者、地域住民、 日本語教師、本学学生	参 加 人 数	外国人在住者・地域住民・日 本語教師 15名程度 学生 7名 教員 1名

概要（本文・写真・図等）

社会教育主事課程の授業（生涯学習支援論Ⅱ）の一環として、2022年11月27日（日）に岡山市立御津公民館で学外授業を実施しました。御津公民館の日本語教室で日本語を学ぶ外国人住民と地域住民が交流を行う多文化カフェに参加後、ワークショップ形式のインタビュー調査を実施しました。日本語教室に通う外国人在住者のインタビュー調査は、2022年度で3度目となります。

今回の多文化カフェは、学生たちが企画や準備を行いました。さまざまな食材を用いたたこ焼きを一緒に作りながら飲食し、歓談しました。




多文化カフェ終了後、講座室へ移動し、参加者がスマートフォンで撮影された写真を介してインタビュー調査（写真誘出インタビュー）を実施しました。今年度のインタビュー調査は、リラックスした雰囲気の中で会話を行うことをねらいとしたため、写真をお互いに見せ合いながら話を行う座談会形式で実施しました。まず参加者全員が一つの講座室に集まりアイスブレイクのワークを行ったあと、多文化カフェで同席したメンバーを中心に3つのグループにわかれ各講座室へ移動しました。その後、各講座室でグループごとに写真を介したインタビューを行い、その様子を録音・録画して記録をとりました。インタビュー終了後、再び最初の講座室に全員が集まり、グループで話題になった写真やそれに付随するエピソードなどを共有しました。



学生たちは、多文化カフェやワークショップ形式のインタビュー調査の企画書を何度も話し合いを重ねて作成し、事前に予行演習などを行って臨みました。当日の想定外の事態に対して、臨機応変に対応する様子が学生たちにみられました。インタビュー調査は、後日文字起こしを行い、データ化したうえで各自の視点から考察を行い、報告書を作成し、その内容を発表しました。

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主	催	就実大学社会教育主事課程（社会教育実習）・岡山市立操山公民館		
タ	イ	トル	みさおやまフォトまち歩きたんけん隊	
実	施	者	就実大学社会教育主事課程（社会教育実習）・岡山市立操山公民館	
日	付	2022年11月5日	場	所 岡山市立操山公民館
対	象	者	参加人数	小学生・中学生・地域住民・ 公民館職員 30名 学生6名 教員1名
概要（本文・写真・図等）				
<p>社会教育法の改正により2020年度より社会教育主事課程のカリキュラムが変更されました。その変更にもない「社会教育実習」という科目が必修化されました。本学では、社会教育施設で90時間行う従来の実習形式から、社会教育施設と連携しながら行う通年開講の実習形式に授業内容を変更しました。2022年度は新課程の「社会教育実習」が開講される最初の年となりますが、近隣の岡山市立操山公民館と連携しながら授業を行いました。公民館職員や地域住民と対話を重ね、グループワークを中心とした社会教育実習を進めました。とくに本年度は、学生たちが「みさおやまフォトまち歩きたんけん隊」という講座を企画し、2022年11月5日(土)に実施しました。この講座は、写真撮影をしながら操山中学校区内をまち歩きする小学生を対象とした講座です。地域の方々や中学生のボランティアにご協力いただきながら、準備・運営を行いました。</p> <p>講座開催に向けて、地域の特性に関する調査（第1回・第2回授業）や現代的課題の検討（第3回・第4回授業）を行い、地域住民への聞き取りの懇談会（第5回授業）を実施しました。その後、地域課題を踏まえ講座の企画や実施計画（第6回～第8回授業）および広報活動や企画内容の再検討（第9回から第14回授業）を行いました。その間、学生たちは何度も現地に足を運び、まち歩きのコースを検討しました。また、8月7日（日）に地域ボランティアの方々との意見交換（第15回授業）、9月10日（土）に操山公民館主催「操山地元学 第1回 東山公園 界限～娯楽の地としての歴史～」の参加（第16回授業）、10月7日（金）に中学生ボランティアへの説明会（第18回授業）を実施しました。夏季休暇中もZoomを用いたオンライン授業で企画について話し合う（第17回授業）ほか、直前まで入念な準備を進めました（第19回～第23回授業）。</p> <p>講座当日の2022年11月5日（土）は、2つのグループにわかれ写真撮影しながらまち歩きしました。参加者やボランティアの方々も身近な地域をいつもと異なる視点で歩き、楽しんで見学している様子でした（第24回授業）。この企画を実施するにあたり、まち歩きのコースの検討のほかにも、対象者別のちらしの作成、小冊子（たんけんブック）の作成、撮影した写真を共有する成果マップの準備、事前の見学依頼や許諾、当日の進行など、取り組むべきことが多岐にわたりました。学生たちはそれぞれの役割を主体的に取り組み、優れたチームワークを発揮していました。講座の運営を通して、地域の方々との世代をこえた関わり方を学び、社会教育活動の意義について考える機会となったと考えます。詳細については「社会教育実習報告書」としてまとめ発行しました（第25回授業～第30回授業）。</p>				
				
			<p>フォトまち歩き成果マップの前で撮影</p>	

地域貢献報告書（学科組織との連携・協働）

主 催	薬学科			
行 事 名	就実大学 実に就くPJ 「目指そう！地域に根差す薬剤師の星」			
講 師	実に就くPJメンバー（3年生3名、4年生5名）、加地弘明			
日 付	2022年5月11, 17, 18, 22日	場 所	就実大学薬学部附属薬局	
対 象 者	薬局来局者	参 加 人 数	のべ37名	

概要

地域住民を対象とする健康キャンペーンへの参画や保健衛生活動の企画・提案を行う活動を通して、地域に根差した次世代医療の要（かなめ）としての薬剤師育成に繋げることを目的に、学生企画の「手作りアロマグッズでリラックス」をしゅうじつ薬局にて実施した。また、実施にあたって、8回のPJ会議を行うなど、学生主体で綿密に会議を行った。

当日の実施項目は以下の通り。

「バスソルトづくり」：購入したバスソルト40gにアロマオイル（最大5滴）で香りづけを行う。

「マスクスプレーづくり」：無水エタノール20mLにアロマオイル（最大6滴）を滴下し、よく混ぜたのち、蒸留水30mLを加え、さらに混ぜ、スプレーボトルに充填する。

両方とも、来局者に対して実施前に持病等の確認（使用可能なアロマイオールの選定）、実施後には使用時の注意点を説明した。来局者アンケートでは回答者すべてが大満足と回答するなど、体験型のイベントとしてとても有意義なものとなった。

なお、本イベントはOniビジョンによる取材を受け、地域のニュースとして紹介された。



イベント実施時の様子



しゅうじつ薬局内の掲示物

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主	催	岡山県生涯学習センター		
タ	イト	ル 日曜こども大学出展「iPS細胞を見よう」		
実	施	者 就実大学薬学部（中西、山崎）		
日	付	2022年6月12日	場	所 岡山県生涯学習センター
対	象	者 一般	参	加 人 数 60名
概要（本文・写真・図等）				
<p>岡山県生涯学習センター主催の「日曜こども大学」に、就実大学からの出展として、薬学部 中西と山崎が参加した。</p> <p>出展内容は「iPS細胞を見よう」というもので、培養中の生きたiPS細胞を生で見れるという企画である。他にも発見者 山中伸弥先生の関連展示やノーベル賞の関連展示を行い、さらに細胞培養の時の培地の操作をピペットを用いて実際に体験できるという細胞培養体験コーナーも設けた。コロナ対策を考えて、1時間交代で各4組、計16組を受け付ける予定であったが、各組が親子連れで3名から4名で来られているので、実際は多くの方が入場された。ノーベル賞の細胞を生きたまま見れるということで大変人気があり、既に満員で締め切られて参加出来なかった方もおられた。</p> <p>生きたままの細胞を持参したり、当日予定通りにiPS細胞を観察用に用意するのはなかなか大変なことで、今回も細心の注意を払いながら準備や輸送を行った。</p>				
				
当日会場の様子		こども大学の案内パネル		

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	イオンモール岡山		
タ イ ト ル	七夕観望会		
実 施 者	就実大学天文部、人と科学の未来館サイピア		
日 付	2022年7月7日	場 所	イオンモール岡山ハレマチ ガーデン
対 象 者	一般	参 加 人 数	80名

概要（本文・写真・図等）

イオンモール岡山 ハレマチガーデンでの天体観望会が約2年半振りに再開された。何か特別な日ということで七夕の日に観望会を行ったが、岡山の市街地からはとても天の川は見えないので、当日見えている半月を代わりに観望した。当日は曇り空だったが観望時には晴れ間も出て、多くの方が久しぶりの観望会ということで望遠鏡に並んだ。共催者として就実大学天文部も参加し、学生と顧問 中西が観望のお手伝いをした。望遠鏡で月を見るのが初めてという方も多く、クレーターが鮮明に見えるのに驚いておられて、子供さんは何回も列に並んでは熱心に観望されていた。小さい方は背が望遠鏡に届かないので、踏み台を用意して望遠鏡を覗いてもらったり、いろいろ工夫も行って有意義な観望会となった。



当日の半月



観望会準備の様子

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	岡山市男女共同参画社会推進センター		
タ イ ト ル	コドモさんかくゼミ 未来のリケジョ応援プロジェクト		
実 施 者	河野 奨、山田 陽一、名和 秀起		
日 付	令和4年8月18-19日	場 所	就実大学薬学部
対 象 者	岡山市小学生女子児童 4年生から6年生	参加人数	18日 14名 19日 16名

概要（本文・写真・図等）

ジェンダー平等を実現する上で、理系分野で活躍する女性が少ないことが大きな課題となっている。そこで、このイベントは次世代を担う女の子たちが、将来、理系への進路選択を身近に感じることが出来るよう、理系キャリアプランを支援する取り組みとして夏休みのうち2日間、岡山市男女共同参画社会推進センターが主催し、就実大学薬学部が協力して本学で開催している。

令和4年度は、8月18-19日の2日間にわたり岡山市小学生女子児童英樹（4～6年生）を対象として「薬剤師さんになってみよう」と「身近にいる！でも見えない細菌を見てみよう！」をテーマに実施した。定員は毎回16名であるが、応募開始初日で定員の16名が満員となり、18日14名（体調不良で当日2名欠席）、19日16名という盛況ぶりであった。

本事業は夏休みの恒例行事として定着しており、普段触れることのない器具を使用して貴重な実験の体験ができることから毎回実施している参加者アンケートにおいても好評である。ジェンダー社会を推進するうえで必要な取り組みであり、子供たちだけでなく、保護者への啓発にも資する事業となっていると岡山市男女共同参画社会推進センターでは認識している。

8月18日「薬剤師さんになってみよう」；薬学部の模擬薬局にて、小学生向けにアレンジした薬剤師業務のうち調剤体験（処方箋の疑義照会→薬袋作成→計数調剤→一包化）、軟膏剤の調製、人体シミュレーターを用いた薬剤の効果判定、副作用モニターを体験してもらった。

8月19日「身近にいる！でも見えない細菌を見てみよう」；薬学部の実習室にて、細菌を染色し、顕微鏡で1000倍に拡大して、その形を目で見て確認した。自分たちの体にも100兆個の細菌が存在しており、細菌が身近な存在であること実感してもらった。

The poster is titled 'SDGs 目標5：ジェンダー平等を実現しよう' and '女の子たちが理系、理系の職業を身近にする社会へ' (Girls' SDGs: Let's realize gender equality). It features a central illustration of a girl with a lightbulb idea, surrounded by text and icons. The main theme is '未来のリケジョ応援プロジェクト' (Future Career Support Project) for '小学校4・5・6年女子限定' (Elementary school girls 4-6 years old). The activities are '薬剤師さんになってみよう!' (Let's become a pharmacist!) and '身近にいる！でも見えない細菌を見てみよう!' (See invisible bacteria that are nearby!). The poster lists dates: ① 8/18 (Sat) 10:00-12:30 and ② 8/19 (Sun) 10:00-12:30. It also includes a venue: 就実大学 薬学部 中夜西川館1-6-1. Other details include a fee of 100 yen (including materials) and a contact number: 086-803-3355.



地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	岡山県県民生活部中山間・地域振興課、吉備中央町		
タ イ ト ル	吉備中央町高齢者交流会「ももカフェ」への学生参加と調査研究		
実 施 者	加地弘明、河野奨、吉井圭佑		
日 付	2022年 8/5、9/20、10/17、 12/15、1/26、2/9、2/16	場 所	吉備中央町総合福祉センター
対 象 者	「ももカフェ」参加者	参 加 人 数	各回 20 名程度

概要（本文・写真・図等）

岡山県県民生活部中山間・地域振興課による「令和4年度地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業」の一環として、吉備中央町旧高富小学校区における高齢者交流の場である「ももカフェ」（毎週木曜日開催）に学生と共に参画し、地域高齢者との交流及び学生が企画する地域住民への健康増進・公衆衛生活動を実施した。具体的には、健康体操、感染防御におけるマスクの効果と継続的な使用の重要性、スキンケア講習、フレイル予防について、薬の適切な服用方法、などおイベントを一回あたり1時間～1時間半程度で実施し、健康維持増進・病気予防に関する基礎知識を高齢者に合わせて学生がレクチャーすると共に、参加者と交流を図った。上記イベントの実施後には「ももカフェ」主催者からの依頼によるSNS発信の手伝いも行った。また、行政と協働で吉備中央町町民の薬剤師へのイメージ調査研究も行った。2月には吉備中央町の担当者を交えた成果報告会を実施した。



地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	岡山市薬剤師会		
タ イ ト ル	第 11 回 薬物乱用防止キャンペーン		
実 施 者	齋藤啓太 (薬学部 准教授)、石崎厚 (薬学部 助教)、吉井圭佑 (薬学部 助教)		
日 付	令和4年 9 月 4 日	場 所	イオンモール岡山
対 象 者	幼児～大人	参 加 人 数	約 50 名

概要（本文・写真・図等）

令和4年9月4日(日)、イオンモール岡山にて、岡山市薬剤師会主催第11回薬物乱用防止キャンペーンに薬学部から「フィジカルアセスメント体験」のブース出展を行った。薬学部教員3名で参加し、呼吸時の肺内の音が聞こえるシミュレーターを用い、正常時と肺炎時の音の聞き比べ体験を行った。子どもから年配の方まで、幅広い年齢層の多くの方々に体験をしていただいた。約50名来場し、大麻などの薬物乱用による肺への障害による呼吸音の変化を感じてもらい、違法薬物使用の防止につながる啓発活動を行うことができた。また、就実大学薬学部をアピールする良い機会となった。



地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	岡山市薬剤師会		
タ イ ト ル	薬と健康の週間イベント（ふれあい祭り） 「こども調剤体験」		
実 施 者	岡山市薬剤師会		
日 付	2023年10月22日	場 所	岡山ふれあいセンター
対 象 者	幼児・児童	参加人数	60名

概要（本文・写真・図等）

薬と健康の週間（10月17日から10月23日）では、医薬品を正しく使うこと、それを扱う薬剤師が果たす役割などを知っていただくと同時に危険ドラッグや覚醒剤などの薬物乱用防止の普及啓発をするため、様々な取り組みを行っている。岡山市薬剤師会が主催する岡山市の薬と健康の週間に開催された「こども調剤体験」に本学の5年生8名と薬学部学外教育委員として平本一幸准教授が協力した。多くの体験希望者があったが、感染対策上、60人に限って体験をしてもらった。薬学生たちは薬袋の書き方、薬に見立てたお菓子を分包機に分配したり、監査をして服薬指導を行うなど、薬剤師の仕事の一連の流れを子供たちが経験するのを、指導をしたり見守ったりした。参加した児童・幼児や保護者は本イベントに大変満足した様子であった。本イベントではこども調剤以外にも「お薬クイズ」「病院薬剤師によるお薬相談」や「一般用医薬品の販売制度、お薬手帳、麻薬・覚醒剤・危険ドラッグなどの危険性について」を紹介するブースなど薬に関する多彩なイベントが行われた。毎年、多くの学生や教員が出向いて協力してきたが、2020年から新型コロナウイルスのために、中止を余儀なくされていた。3年振りの開催であったが、薬剤師の職能を多くの方に知っていただくなどの目的を果たして盛会のうちに終了した。

薬剤師会の皆さんとこども調剤体験を実施する薬学生達




ふれあいまつり 2022
 10月22日（土）10:00 - 13:00 ■ 岡山ふれあいセンター

軽スポーツ企画（屋外）
 ふれあい子ども園 1回/100円
 フォーワード（2期）
 コリコランド
 ふれあいステージショー
 お薬クイズ
 こども調剤体験
 ふれあいマルシェ開催

その他、館内には様々なブースを設けていますので、ぜひお立ち寄りください。また、急遽内容が変更となる場合がございますので、予めご了承ください。また、参加券が必要なブースにつきましては、当日9:30~1階ガリアにて整理券を配布いたします。先着順となりますので、予めご了承ください。

岡山ふれあいセンター 1階
 〒730-0001 岡山県岡山市東区大井町1-1-1
 TEL: 086-274-5151
<https://www.fureai-center.com/>

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主	催	日本細菌学会 中国・四国支部会		
タ	イ	トル	第75回日本細菌学会中国四国支部総会	
実	施	者	塩田 澄子、山田 陽一、加藤 久登	
日	付	2022年10月1日	場	所 オンライン
対	象	者	参加人数	75名
概要（本文・写真・図等）				
<p>日本細菌学会は1948（昭和23）年に発足し、その歴史を紐解くと、第1回総会は、1929（昭和4）年、北里柴三郎を総会長として開催され、開会宣言は志賀潔が行ったとされる第1回衛生学微生物学寄生虫学聯合学会の総会につながるという歴史ある学会である。中国・四国支部は日本細菌学会発足時に設立されており、本体と同様、長い歴史を持つ。</p> <p>第75回となる日本細菌学会 中国・国支部総会（総会長:塩田澄子）及び評議員会は2022年10月1日に、オンラインで開催された。本会は農学系・理学系・医学系・歯学系・薬学系等の幅広い分野から微生物の研究を行う研究者が集い、交流の場となっている。本総会では、昨年同様の27演題が集まった。学生優秀発表賞応募演題も10演題となり、若手研究者に研鑽の機会を提供することができた。特別講演は、新進気鋭の微生物学者である広島大学丸山史人先生をお招きし、「バイオエアロゾルと住環境微生物研究のすゝめ」という演題で、最先端の研究の成果を講演いただいた。一般演題、特別講演とも活発な質疑応答が行われ、オンライン開催ではあったが、盛会のうちに終了し、好評を得た。</p>				
				
<ul style="list-style-type: none"> ■ 開催日：2022年10月1日（土） ■ 会場：オンライン開催 ■ 総会長：塩田澄子（就実大学薬学部） ■ 特別講演：「バイオエアロゾルと住環境微生物研究のすゝめ」 演者：丸山史人先生（広島大学 IDEC 国際連携機構 プラネターリーヘルスイノベーションサイエンスセンター 環境遺伝生態学分野 教授） ■ 参加登録／演題登録期間：2022年7月15日（金） ～ 8月15日（月） 				

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	岡山市立岡北中学校		
タ イ ト ル	令和4年度岡山市立岡北中学校2年生職場体験学習		
実 施 者	毎熊隆誉、名和秀起、森山 圭、中西 徹、山崎 勤、徳永智典、洲崎悦子		
日 付	2022年 11月 9～11日	場 所	薬学部U館 各研究室
対 象 者	岡北中学校2年生	参加人数	6名

概要（本文・写真・図等）

岡北中学校2年生6名の職場体験学習について薬学部で受け入れて、以下のように実施した。

	午前 9:30～12:00	午後 13:00～15:00
11/9（水）	薬剤師体験 (担当：名和、毎熊)	どうやって粉薬を見分ける？ (担当：森山)
11/10（木）	臓器を顕微鏡で見よう！ (担当：洲崎、徳永)	薬学部他、施設見学
11/11（金）	これが iPS 細胞だ！ (担当：中西、山崎)	

「薬剤師体験」では、模擬処方せんに従って、錠剤、散剤、水剤および軟膏剤をつくる調剤体験と聴診器等を用いて患者さんのバイタルサインを確認する体験を行った。

「どうやって粉薬を見分ける？」では、見た目では識別できない白色の粉薬を「近赤外分光法」を用いて見分ける技術について、その実演と原理の解説を行った。

「臓器を顕微鏡で見よう！」では、染色を行って組織標本を作製し、顕微鏡観察を行った。また、組織像を写真に撮って印刷し、オリジナルシートも完成させた。

「薬学部他、施設見学」では、薬学部棟内の共同器機室や図書室を案内したほか、新棟やS館、全学の図書館も訪問して、大学内には色々な施設や設備があることを紹介した。

「これが iPS 細胞だ！」では、再生医療に利用されるノーベル賞の万能細胞 iPS 細胞の実物を、生きたまま顕微鏡で観察して体感し、再生医療や細胞治療薬の開発についても説明を行った。

いずれの体験においても6名全員が熱心に取り組んでいた。また、「薬学部と聞いて想像していたのとは異なる色々なことが行われていて、知らなかった多くのことを体験できてよかった」という好評を得ている。薬剤師体験をはじめとして多くの体験をしてもらうことで薬学領域への興味も持ってもらえたようである。



薬剤師体験の様子



「どうやって粉薬を見分ける？」体験の様子

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	岡山県県民生活部中山間・地域振興課、吉備中央町		
タ イ ト ル	中山間部における医療と介護の問題点を考える宿泊研修		
実 施 者	小虎泰之（吉備中央町包括支援センター）、宮本朱美（吉備中央町社会福祉協議会）、黒田員米（吉備中央町議会）、清水美恵子（ももカフェスタッフ）、加地弘明		
日 付	2022年11月16日、17日	場 所	吉備中央町総合福祉センター 他
対 象 者	本学学生、吉備中央町民	参 加 人 数	就実大学7名、吉備中央町8名

概要（本文・写真・図等）

岡山県県民生活部中山間・地域振興課による「令和4年度地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業」の一環として、吉備中央町の医療と介護の現状を知り、中山間部における医療・介護の問題点を把握するとともに、未来の薬剤師として自分たちに何ができるのかを考えることを目的に、吉備中央町の行政を交えた医療と介護を考える宿泊研修会を実施した。研修会では、吉備中央町福祉課包括支援センターの小虎先生より地域包括支援センターの業務内容、ケアマネと薬剤師の連携の事例報告、残薬状況等について、吉備中央町社会福祉協議会宮本先生より、地域の課題を解決する場としての社協の業務内容について、吉備中央町議会黒田先生より孤立している住民の方への対応、限界集落、高齢者交流会の実施状況、健康に長生きできる方策の立案、など様々な面からの町の現況について、それぞれお話を伺い、その後グループワークによる意見交換を行った。また、町内探検・古民家宿泊を通じて、吉備中央町の魅力を探求した。翌日の高齢者交流会「ももカフェ」時には利用者の送迎への同乗、地域個別ケア会議の見学なども行った。研修会を通じて、学生は中山間部における医療や介護の問題点を把握し、薬剤師として地域住民へ何ができるのかを考えるきっかけとなったようであった。




地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主	催	岡山市立御津公民館		
タイトル	2022年度 御津防災キャンプ 就実大学薬学部附属薬局ブース			
実施者	就実大学薬学部附属薬局（担当：吉井 圭佑）			
日付	2022年11月26日	場所	岡山市立御津公民館	
対象者	御津地区の皆さん	参加人数	地域住民の方々 約30名	
概要（本文・写真・図等）				
<p>岡山市では平成24年度より防災キャンプ推進事業として、各地区の児童・生徒らを中心に防災や災害に関する学習機会を提供している。近隣地区である御津地区においても毎年、御津防災キャンプを開催されており、様々なセクションに分かれて、児童・生徒らに災害や防災に関連した企画を提供している。</p> <p>就実大学薬学部附属薬局は岡山市北区、岡山医療センターの門前に位置する保険薬局である。当局は、これまで「災害時持ち出し袋」をはじめ、災害時に必要な物品を幅広く提案しており、地域の防災に関連した講義等にも関与してきた。そこで、2022年度御津防災キャンプにおいて、就実大学薬学部附属薬局ブースとして、防災グッズの提案や学習する機会を提供した。</p> <p>御津地区の児童・生徒の皆さんやご家族の方など多くの方にブースに来て頂き学習して頂いた。さらに、御津防災キャンプの担当者様より来年度もよろしくとお願いを頂いた。今回は当局参加初年度ということで雰囲気など不明な点が多かったが、来年度は内容をブラッシュアップし臨みたいと考えている。</p>				
				

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主	催	人と科学の未来館サイピア		
タ	イ	ト	ル	月食観望会
実	施	者 就実大学天文部、人と科学の未来館サイピア		
日	付	2022年11月8日	場	所 人と科学の未来館サイピア
対	象	者 一般	参	加 人 数 100名
概要（本文・写真・図等）				
<p>人と科学の未来館サイピアにて皆既月食観望会を開催し、就実大学天文部が共催者として参加した(顧問 中西と学生3名)。</p> <p>当日は天候にも恵まれて、約3時間半にわたる壮大な天文ショーを観望できた。特に皆既時間が1時間半と長いのと、442年振りに皆既中の月に惑星が隠れるという珍しい現象（次回は322年後）が起きるので話題となり、多くの方が観望に来られて賑わった。月が欠け始めると歓声がおこり、皆、神秘的な月食を望遠鏡や双眼鏡で代わるがわる眺めていた。天文部の学生は、望遠鏡で観望する方のお手伝いをして中西は写真撮影を主に行った。皆既中の月に天王星が隠れる現象は望遠鏡でないと見えないため、多くの方が望遠鏡に行列した。また、写真撮影中のカメラのディスプレイに赤い月が映ると、それをスマホで撮影しようと人が集まった。当日は、岡山県天文王国おかやまの取材担当の方も来られていて、月食を眺めながら天文談議に花が咲いた。</p>				
				
月食で欠けた月と天文部学生		皆既中の月		

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主	催	科学キッズフェスティバル実行委員会		
タイトル	科学キッズフェスティバル in 京山祭 就実大学「身近なもので電池を作ってみよう！」			
実施者	加藤久登、増田和文			
日付	2022年12月11日（日）	場所	岡山県生涯学習センター	
対象者	幼児～小学生・保護者	参加人数	134名	
概要（本文・写真・図等）				
<p>12月11日（日）岡山県生涯学習センターにて開催された「科学キッズフェスティバル in 京山祭」に『身近なもので電池を作ってみよう！』をテーマに出展した。コロナ感染症対策を徹底し、午前・午後それぞれ予約制とする中、幼児～小学低学年生69名（午前38名、午後31名）、その保護者65名（午前36名、午前29名）の計134人が出展ブースを訪れ、木炭電池作りの体験及び電池の原理を学習した。銅板、アルミ板をみかんに挿すだけで電池ができること、木炭・アルミ箔・食塩水から作った電池がモーターを回し、電子オルゴールを鳴らすことに意外性があり保護者にも大変好評であった。特にモーターにつけたプロペラが回った時には参加者から歓声が上がった。また、研究室1年生2名も参加し、実験体験の説明や保護者への対応など学外研修としても有意義であったと思われる。</p> <p>なお、このイベントには、23の団体（コロナ禍の影響で例年の約半数）が出展しており、内訳は大学(3)、中学・高校・専門学校(5)、企業(3)、その他NPO法人等(12)、またテーマも「サイエンスショー」（人と科学の未来館サイピア）、「歯を科学する！」（岡山大学歯学部）、「三菱電動車両の電動車両で便利な給電ライフ体験！」（西日本三菱自動車）、「サッカーロボットのプログラム体験会」（岡山ロボット技術子供育成協会）、「知っているようで知らないコケを顕微鏡で見よう！」（岡山コケの会）など幅広く様々であった。</p>				
				

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	まなびフェスタ in いばら 実行委委員会		
タ イ ト ル	第41回生涯学習の集い・まなびフェスタ in いばら「公開講座」		
実 施 者	塩田澄子		
日 付	令和5年1月29日	場 所	アクティブライフ井原
対 象 者	井原市民	参 加 人 数	現地30名、井原放送視聴者

概要（本文・写真・図等）

「まなびフェスタ in いばら」は、生涯学習の発表の場として「活動発表や体験の場を提供することにより、多くの方が学ぶ楽しさや大切さを感じ、学びの輪がより一層広がること」を目的として井原市で年1回開催されている。コロナ禍のために中断していたが、3年振りに開催されることとなり、公開講座として「新型コロナウイルス感染症に対する感染対策」の講演を依頼された。

当日は、「これで安心！With コロナ社会の感染対策～正しく知って、正しく防ごう～」という演題で、井原市長様、井原市教育委員長様のご臨席のもと、80分の講演を行った。会場での視聴者は少なかったものの、本講演は収録されて、市民向けの井原放送で2月に4～5回放映されるとのことであった。まず、最近話題の感染症として「新型コロナウイルス感染症」について、最新の情報を踏まえ、感染状況、オミクロン株の変遷と今後の予想、ワクチン・治療薬の効果、エアロゾル感染の感染対策、マスクの正しい付け方、ウイルスを遮断する効果的なおりのW折マスクの紹介をした。その他、「感染の成立と病原体」、「薬剤耐性菌の話」、「気を付けよう、冬の感染症」、「災害時における感染対策」などを説明した。

講演の2日前に新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類感染症に移行することが決まったばかりであったことから、「With コロナ社会の感染対策」がタイムリーなテーマになった。

～元気いっぱい 笑顔いっぱい 学びのチカラで輝く明日～

第41回 生涯学習の集い まなびフェスタinいばら

約50の生涯学習団体が日頃の学びの成果を発表します。
舞台発表、展示による活動紹介、体験講座など盛りだくさんの内容です。
皆さまのご来場をお待ちしています。



令和5年1月29日（日）9：00～16：00

ところ アクティブライフ井原



アクティブライフ井原

公開講座

9：30～12：00（9：00開場）

◎活動発表

岡山県立井原高等学校書道部、Team夢源♡井原

◎講演

「これで安心！withコロナ社会の感染対策
～正しく知って、正しく防ごう～」

就実大学薬学部教授・薬学部長

塩田 澄子 氏



地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主	催	就実短期大学幼児教育学科		
タ	イ	トル	リカレント教育研修会及び潜在保育士復職支援研修会	
実	施	者	幼児教育学科教員、岡山県保健福祉部	
日	付	4年8月23日、24日、29日	場	所 本学
対	象	者	参加人数	概要に明記
概要（本文・写真・図等）				
<p>概要 2022年度 潜在保育士復職支援及び卒後リカレント教育研修会一覧と参加人数</p> <p>※ [教育相談] 荊木、 対面2人、OL 6人、紙面 4人</p> <p>※ [乳児保育] 三好、 対面3人、OL 13人、紙面 1人</p> <p>※ [保育内容総論] 六車、 対面2人、OL 7人、紙面 3人</p> <p>[器楽] 山下、 対面1人、紙面 6人</p> <p>[図画工作] 柴川 対面2人、紙面 4人</p> <p>研修内容、参加人数は、上記のとおりであり、*印の講義科目は、対面とオンラインでの併用開催であったことを示している。情報交換会及び就実こども園での体験実習は、対面での開催を想定して準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、研修会直前に急遽中止とした。</p> <p>受講申込者の総数は23名で、講義への申込件数は、直前で中止となった情報交換会と体験実習を含めて延べ57件であった。</p> <p>2021年度の活動報告において、対面・オンライン・紙面研修を併用した開催について検討の余地があるとし、今年度はそれを実行した。これまでに本学科がコロナ禍に行ってきたライブ型のオンライン授業経験の集積により、昨年度と比較して受講者に過度なストレスを与えることなく、オンライン研修を遂行することができたと考える。同時に、初めてオンライン研修会に参加する受講者もいたが、多くの受講者は長引くコロナ禍のためか、オンラインでの研修会に参加するための機器の操作に慣れているようであった。双方にこのような背景があり、大学所在地以外の自治体からの参加者が増えたと考える。広域からの受講希望者に研修会参加機会を提供できることや、会場までの移動時間を削減できることは受講者にとって有益であると考え。一方で、昨年度に引き続き、実技科目の開催方法については、今後も検討の必要がある。受講者のアンケートには、リズム遊びや手遊びに関する研修を希望する声も多い。対面及びオンラインで実施できる方法を模索していきたい。</p> <p>本事業は、令和4年度岡山県保育士養成施設連携強化事業として委託を受け実施した。</p>				

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	岡山県立矢掛高等学校		
タ イ ト ル	2022年度3年生やかげ学『プレゼン作成トレーニング』		
実 施 者	鎌田 雅史		
日 付	2022年10月20日	場 所	岡山県立矢掛高等学校
対 象 者	矢掛高校3年生	参 加 人 数	43名
概要（本文・写真・図等）			
<p>1. 概要</p> <p>岡山県立矢掛高校では、高校生が地域に出て地域の方々の協力を得ながら1年間体験的に学び、将来について考える「やかげ学」という取り組みを行っている。矢掛学での学びは、3年生の2学期に『やかげ学・発表会』として町の文化センターの大ホールで発表される。</p> <p>本講座は、既に地域での学びを1年間体験し、発表会に向けてプレゼンテーションを作成しようとしている高校生に向けて、Microsoft PowerPointを使った資料作成の基本や、プレゼンテーションを行う上で知っておきたい事項について、情報教室において体験的に学習するものである。</p> <p>10月20日（木）、13:10～14:50矢掛高校3年生総合コース43名を対象に実施された。</p> <p>2. 講義の内容</p> <p>前半部：プレゼンテーションの準備の仕方</p> <p>1) プレゼンテーションとは</p> <p>プレゼンテーションで一番大切なのは『伝える』ことである。社会生活でプレゼンテーションが求められるのは、面接や営業、企画提案など重要な局面である。学校の授業では教員がお膳立てしてくれるが、社会に出た後のプレゼンテーションは、真剣に聞くかどうかを決めるのは聴衆側である。聞く価値がないと判断されれば、相手にしてもらえない。何を伝えたいかを発表者自身が整理できておらず、羅列的に行われるプレゼンテーションは価値がない。興味を引き、価値を理解してもらう為には、伝えたいメッセージを明確にし、表現を工夫することが必須である。PowerPointを触る前に、『限られた時間や方法の中で、何を伝えたいのか』しっかりと整理することが求められる。（5W1H（いつ、どこで、誰に、何を、なぜ、どうやって）伝えるのかクリティカルに考える必要性について講義を行った）。</p> <p>2) プレゼンテーション作成の流れ</p> <p>まずは、伝えたい『メッセージ』を確定することが必要である。その後、効果的な表現の方法を考える。Power Pointを用いた資料の使用は、表現方法の選択肢に過ぎない。限られた時間の中で、『メッセージ』がしっかりと届くように、議論を拡散させないように注意しながら、内容を構成していく必要がある。</p> <p>3) プレゼンテーションの構成例</p> <p>プレゼンテーションに慣れていない人の特徴として、いきなり本題の説明を始める人が多い。しかし、まずは聴衆が「なぜ」プレゼンテーションを聞く必要があるのか価値づけ、興味を惹きつける必要がある。またプレゼンテーションを聞くことで、どの様な情報が得られるのか先に概要を示すことが有効である。</p> <p>特に、話題の中で『主役』と『脇役』を決める必要がある。『主役』となるのは、プレゼンテ</p>			

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

ーションを通して伝えたい『メッセージ』に最も関連が強く、その説得力を裏付けるような話題である。『脇役』はその『主役』となる話題の理解を補強する情報や、プレゼンテーションにメリハリをつけるための話題となる。

例えば、矢掛学で『図書館の仕事がいかに関域に貢献しているか発見した』ということが『主役』であれば、図書館での一般的な日常業務や矢掛学の中でどのように図書館運営に関わったかなどの補足情報は『脇役』となる。主役は冒頭の発表概要のところ、聴衆の興味を引く際にも軽く触れておき、プレゼンテーションの中核部で丁寧に説明し、発表後半のまとめのところでも簡潔に振り返る、という挟み込みの論法が有効である。持ち時間（5分程度）を想定し、どの話題にどれくらいの時間をかけて、どのような順序で話題提供をするか、あらかじめ大枠を決めてからプレゼンテーション資料を作成すると、纏まった資料を作ることができる。

4) プレゼンテーションのテクニック

結論を先に述べる展開は、聞き手が能動的にプレゼンテーションを聞きやすい。最初に、全体像を示し、プレゼンテーションならではの標識語（まず初めに●●についてお話しします。以上●●でした。次に●●について…）を上手に使いこなすことで、雰囲気切り替わり、プレゼンテーション全体にメリハリが生まれる。

聞き手の集中力が中だるみしやすい中盤部においては、聴衆への呼びかけや参加型となるような工夫が有効である。クイズを出したり拍手を求めたりといった活動も、気分を切り替える上で有効である。

5) まとめ

プレゼンテーションの準備においては、以下のような点について準備しておくといよい。

1. 資料作成は、発表全体の流れを決めてから取り組もう。
2. 『伝えたいメッセージ』を明確にしよう。
3. 聴衆に興味を持ってもらうために、導入部をしっかり行うよう意識しよう。
4. 発表が中だるみしないように、メリハリをつける工夫をしよう。

後半部：Power Point による資料作成のコツ

後半部については、Microsoft Power Point の基本的な操作や、スライドデザインの基礎について実際にPCで作業をしながらワークショップを行った。内容は以下のとおりである。

1. ショートカットを使いこなして作業を効率化しよう
 2. レイヤー配置を理解しよう
 3. “図形の配置”を使いこなそう
 4. 写真の加工
 5. スライドデザインの基本
- 1) プレゼン資料は、『読む』ではなく『見る』もの。
 - 2) KISS (Keep It Short and Simple) の法則
 - 3) 1Slide ①Message
 - 4) 色彩配置と、文字フォント

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	玉野私立図書館		
タ イ ト ル	「サステナブルファッションを学んで、ドールサイズのドレスを作ろう！～ ファッションデザインをもっと身近に楽しく！～」		
実 施 者	久保美沙登		
日 付	2022年7月18日(月曜日)	場 所	玉野市図書館
対 象 者	小3から高3(とその保護者)	参加人数	19名

概要（本文・写真・図等）

生活実践科学科 久保美沙登先生による、ワークショップの開催

「サステナブルファッションを学んで、ドールサイズのドレスを作ろう！

～ ファッションデザインをもっと身近に楽しく！～」

2022年7月18日（月曜日） 玉野市図書館 10:30～12:20 （110分）

「サステナブルファッション」について学びながら、実際にドールサイズのドレスを作ります。

場 所：多目的室（大）

参加料：無料 定員 15名（先着順・要申込）

対象年齢：小3から高3（保護者同伴可）

持ち物：色鉛筆、お家にある不要な ラッピングペーパー・布はぎれなど（あれば）

申込方法：玉野市図書館にお電話または総合カウンターで 直接お申し込みください。申し込みは7月5日（火）9時から17日（日）21時まで

玉野市立図書館 特別講座

**サステナブルファッションを学んで
ドールサイズドレスを作ろう！**

～ファッションデザインをもっと身近に楽しく～

2022年 **7月18日（月・祝）**
10時30分～12時20分（受付開始10時～）

「サステナブルファッション」について学びながら、
実際にドールサイズのドレスを作ります。

家にある使われなくなったハンカチ、リボン、ラッピングペーパーなど、リサイクル素材を盛り入れたドールサイズのペーパーファッションです。作った後は持ち帰れます。

18歳以下対象講座

【講師プロフィール】
久保美沙登
新薬学院大学 生活実践科学科 准教授
2022年「岡山県立大学」で「サステナブルファッション」をテーマに、環境問題に関心のある学生に、楽しく学ぶためのワークショップを開催し、その成果を発表。2022年「サステナブルファッション」をテーマに、環境問題に関心のある学生に、楽しく学ぶためのワークショップを開催し、その成果を発表。

【主催・申込み】
玉野市立図書館 (31-3712) 〒708-0011 玉野市学野1-38-1 図書館1階・ラウンジ2階

場 所 多目的室（大）
参加料 無料
定 員 15名（先着順・要申込）
対象年齢 小3～高3（保護者同伴可）
持 ち 物 色鉛筆、お家にある不要なラッピングペーパー・布はぎれなど（あれば）
申込方法 お電話または総合カウンターで直接お申し込みください。
7月5日（火）9時～17日（日）21時まで

受講者	特別講座「サステナブルファッションを学んでドールサイズドレスを作ろう！」	受付日
住所	年齢	受付番号
名前		
電話番号		



地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	コンソーシアム岡山		
タ イ ト ル	吉備創生カレッジ 「トム・ソーヤーの食」——食卓が暴露する『トム・ソーヤーの冒険』		
実 施 者	和栗 了		
日 付	2022年 4月 27日	場 所	山陽新聞本社ビル
対 象 者	吉備創生カレッジ受講者	参 加 人 数	15名

概要（本文・写真・図等）

1. 物語は金曜日のお昼に始まります。

『トム・ソーヤーの冒険』(*The Adventures of Tom Sawyer*; 1876年)は最初から多くの挿絵をいれて出版されました。それで、初版の挿絵も重要なテキストの一部と考えられています。

トムは毎日お昼に徒歩で家まで帰り、午後また学校で授業を受けることになっています。

保護者のポリーおばさん(Aunt Polly)はお昼ご飯を作って待っていません。家に戻ってもお昼ご飯はないし、学校にいても、他の子供たちがバター付きパンなどのお昼を食べるのを見ていただけです。仕方なくトムはポリーおばさんの目を盗んで、保存用のジャムを食べるのです。

もし、ポリーおばさんがお昼ご飯を用意していたら、冒頭のジャム盗み食い事件は起きなかったのです。ポリーおばさんは朝ごはんと晩御飯を提供しますが、お昼ご飯は提供していません。

2. 翌日の土曜日のお昼ご飯もありません。

有名な塀塗りの場面は土曜日の朝から始まります。ポリーおばさんはお昼を過ぎて、2時ころに結果を確認するために外に出ます。つまりトムのためにお昼ご飯を作らないのです。

社会全体が一日二食だったかという点、おそらくそうではなく、ほとんどの家庭が一日三食だったことは間違いありません。『トム・ソーヤーの冒険』には書いてありませんが、バター付きパンを持ってきている子供がおり、トウエインはそれを盗んで食べたことがあったと『自伝』で告白しています。つまり、ポリーおばさんの家庭では一日二食なのです。



トムが土曜日の午前中、あるいは昼過ぎまでに口にしたものは友達からまき上げたリンゴの芯くらいです。

3. 『トム・ソーヤーの冒険』で言及される「食品」

12章で、鎮痛剤のペインキラーを猫のピーターに飲ませます。



22章より。本文にはスイカを食べたとは書かれていません。

トムとジョー・ハーパー (Joe Harper) とハックルベリー・フィン (Huckleberry Finn) の三人です。スイカはおそらく盗んできたものでしょう。

『トム・ソーヤーの冒険』には、食卓に上がる食べ物と食卓に上がらない食べ物があり、違いがあるようです。

4. 食卓の上に乗るのは？



34章より

ダグラス未亡人 (the Widow Douglas) の食卓にのるのは金貨一万二千ドルです。トムはこの金貨を、町の名士たちの前で、食卓に乗せることでその所有権を確立するのです。発見者が所有者になるのです。

この小説が本当に冒険物語だとすれば、食卓に上がらない食べ物や薬などの方が重要な意味を持ったでしょう。だからこそ、語り手は具体的に名前を挙げました。しかし同時に、この小説では最初から食卓が登場し、特別の機能を果たしていました。セントピーターズバーグの白人たちによって確立された価値体系の入り口としての機能です。ですから食卓に上がる料理そのものは重要ではなく、何を食べていたのかも明示されないのです。

マーク・トウェインは『自伝完全版』の中で中西部の料理を懐かしく回想しています。それはミズーリ州フロリダに住んでいた叔父夫婦、ジョン・クオールズとマーサ・クオールズの家で食べた料理でした。ということは、ハニバルの家の食卓には名を挙げるべき料理が並ばなかった、つまりトウェインの母親ジェイン・クレメンズは料理が下手だったことを示します。それが事実であったとしても、小説『トム・ソーヤーの冒険』では食卓は田舎町のエスタブリッシュメントへの入り口として機能していたのです。そして、トウェインは、もちろん、食卓を通じてその価値観に疑問を投げかけているのです。

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主	催	コンソーシアム岡山		
タ	イ	トル	吉備創生カレッジ「古代中国の皇帝支配：古代中国の会議と文書」	
実	施	者	渡邊将智	
日	付	2022年6月20日	場	所 山陽新聞本社ビル
対	象	者	参加人数	20名
概要（本文・写真・図等）				
<p>2022年6月20日（月）、吉備創生カレッジ（大学コンソーシアム岡山・山陽新聞社共催）にて講師を担当した。演題は「古代中国の皇帝支配：古代中国の会議と文書」である。</p> <p>この講座では、秦漢時代において中央政府が会議で決定した事項を中国全土に行き渡らせるにあたり、文書行政が重要な役割を果たしていたことを、竹簡・木簡などの出土文字資料を活用して解説した。里耶秦簡・武威漢簡などに含まれる行政文書（皇帝の詔書など）や、張家山漢簡などに見える前漢時代の法制文書（律令など）を用いて、秦漢時代に文書が各地に伝達される仕組みを復元した。当日は竹簡・木簡のレプリカも紹介し、文書が実際にはどのような形状をしていたのかを視覚的に示した。</p> <p>また、今回の講座では、秦漢時代の皇帝と官僚がどのように会議を行い、政策を決定していたのかについても論じた。当時の会議の種類を説明するとともに、皇帝と官僚が長安城（前漢の都）・洛陽城（後漢の都）のどこで会議を行っていたのかを解説した。『史記』・『漢書』をはじめとする伝世文献には、皇帝と官僚が会議の場で議論する様子が記されている。これらの史料を分析することを通じて、皇帝と官僚がある時には意見を激しく対立させ、またある時には相手に根回しするなど、せめぎ合いながら意思決定を行う様子を明らかにした。</p> <p>当日の聴講者は約20名で、幅広い年代の方々が参加された。講座の最後には、秦漢時代の文書の伝達方法や出土文字資料に用いられた文字などについて質問を受けた。講座の終了後も個別に質問を受け付け、講師としても充実した講座となった。</p>				

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主	催	コンソーシアム岡山		
タイトル	吉備創生カレッジ「親には内緒」への関わり方：秘密への心理学的アプローチ			
実施者	井芹聖文			
日付	2022年 10月 19日	場所	山陽新聞本社ビル	
対象者	吉備創生カレッジ受講者	参加人数	5名	
概要（本文・写真・図等）				
<p>この講座では、まず、秘密を持つことと心理的発達について、特に親子関係の視点から解説した。子どもが成長し、少しずつ親元を離れた行動が増える中で、子どもも親も不安を抱くようになるが、そこには秘密が持つ「境界・距離を作る」作用が関連している。秘密を持てるようになることは「あなた」とは違う考えをもつ「私」という感覚を育む点で自立にもつながり、同時に親の位置づけも子どもの保護者から自立支援者へと変化していくとして、「親が知らない子どもの世界」を尊重し、許容することの意義を指摘した。また、報告者が実施したアンケート調査の結果も示しながら、思春期の悩みの種類とその相談相手の傾向、いわゆるネット相談の現状についても説明した。</p> <p>こうした予備知識を踏まえて、秘密・内緒に対して親はどのように関わるのが望ましいのかについて、嘘をつかれたとき、秘密を打ち明けられたとき、誰にも相談できずに一人で抱え込んでしまっていると感じられたときなど、いくつかの場면을例示しながら理解と対応例を講義した。その際、秘密を共有する大切な瞬間につながるように、普段からの良好な関係づくりが大切であると伝え、その工夫として、言語的・非言語的メッセージを伝える方法を併せて講義した。</p> <p>当日の受講生は5名であり、人数こそ少なかったが、幅広い年代の方々が参加された。講義中は積極的にメモを取る姿が見られ、終了時には、受講生の関心事に関する質問を個別に受けた。これらの様子から、受講生にとって、大切な人との関係性や自身の関わりを見つめ直すきっかけになる充実した講座になったと感じている。</p>				

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主	催	大学コンソーシアム岡山		
タ	イ	トル	乳幼児のことばを育む支援—発達支援の視点から—	
実	施	者	津島 靖子	
日	付	2023年 2月 22日	場	所 山陽新聞本社ビル
対	象	者	参加人数	5名
概要（本文・写真・図等）				
<p>「乳幼児のことばを育む支援」と題し、生まれてから1年かけて初語を獲得していくまでの時期に焦点をあて、ことばの発達の基盤となる要素や言語・コミュニケーションの特徴について解説した。</p> <p>はじめに、言語発達学の視点から、乳幼児期は「前言語期」「単語獲得期」「前期構文獲得期」「後期構文獲得期」の4つの段階に分けられることを説明し、受講者に「理解と表出の発達に差があるか？」といった問いかけをしながら、ことばの発達のマイルストーンを紹介した。さらに、本講座で焦点をあてる「前言語期」のコミュニケーションには3つの段階があること、各段階におけるコミュニケーション的関係について解説した。</p> <p>これらの基礎知識を踏まえて、受講者が言語・コミュニケーションの発達に関わる要素を具体的にイメージできるように、視聴覚メディアをもとにした観察や日常的な遊具を使用した体験を含めて講義を行った。発達支援の視点からは、ことば（音声）の出現の有無のみではなく、ことばが出現する前後のコミュニケーションに着目していくことの大切さを伝えた。</p> <p>当日は、アットホームな雰囲気のもとに受講者の気づきや意見を聞きながら進めることができた。講座終了後に受講者から質問を受け、ことばの発達に必要なことは何かを考える場を提供できたものと感じた。</p>				

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	岡山市保健福祉局高齢福祉部地域包括ケア推進課		
タ イ ト ル	春の健康フェア		
実 施 者	松本かおり、西山典子、吉井圭佑、柴田隆司、竹内紗季、竹内真優 薬学部5年生3名		
日 付	2022年4月18日～22日	場 所	附属薬局待合室
対 象 者	来局者	参 加 人 数	12名

概要（本文・写真・図等）

岡山市が実施するフレイル対策事業に附属薬局は参加登録しており、2022年4月18日（月）～22日（金）の期間に「春の健康フェア」と題したイベントを行い、薬学部5年の第1期実務実習生らとともに、来局者に対してフレイルチェック（心身の活力が低下して要介護状態に近づいているかどうかを調べる）や肌水分測定とハンドケア講習を行った。

フレイルチェックは、岡山市指定のチェックシートに従って問診と握力測定を行い、その結果を基に「栄養」、「体力」、「社会参加」の面で優先的に対応すべき点について助言・指導を行った。

また、薬局製剤の「しゅうじつ薬局U・E・Hクリーム」を用いてハンドケア講習会を行ったほか、薬や健康に関する悩みなどの相談にも応じた。



地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	岡山市保健福祉局高齢福祉部地域包括ケア推進課		
タ イ ト ル	健康まつり		
実 施 者	松本かおり、西山典子、吉井圭佑、柴田隆司、竹内紗季、竹内真優 薬学部5年生3名		
日 付	2022年8月1日～10日	場 所	附属薬局待合室
対 象 者	来局者	参 加 人 数	22名

概要（本文・写真・図等）

岡山市が実施するフレイル対策事業に附属薬局は参加登録しており、2022年8月1日（月）～10日（水）の期間に開局3周年記念として「健康まつり」と題したイベントを行い、薬学部5年の第2期実務実習生らとともに、来局者に対してフレイルチェック（心身の活力が低下して要介護状態に近づいているかどうかを調べる）や体内糖化度（体内の老化物質の状況）測定、肌水分測定とハンドケア講習を行った。

フレイルチェックは、岡山市指定のチェックシートに従って問診と握力測定を行い、その結果を基に「栄養」、「体力」、「社会参加」の面で優先的に対応すべき点について助言・指導を行った。

また、体内糖化度の結果をもとに食事と運動面での生活指導を行い、薬局製剤の「しゅうじつ薬局U・E・Hクリーム」を用いてハンドケア講習会を行ったほか、薬や健康に関する悩みなどの相談にも応じた。



地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主	催	厚生労働省、日本薬剤師会、岡山県薬剤師会		
タ	イ	トル	薬と健康の週間	
実	施	者	松本かおり、西山典子、吉井圭佑、柴田隆司、竹内紗季、竹内真優 薬学部5年生3名	
日	付	2022年10月17日～21日	場	所 附属薬局待合室
対	象	者	来局者	参加人数 11名

概要（本文・写真・図等）

国が定める「薬と健康の週間」は、医薬品を正しく使用することの大切さとそのために薬剤師が果たす役割の大切さを一人でも多くの方に知ってもらうために、積極的な啓発活動を行う週間である。岡山県薬剤師会は、「薬局で健康応援キャンペーン」と題して会員薬局へこの期間中に催しを行うよう求めている。そこで附属薬局では、薬学部5年の第3期実務実習生らとともに、体内糖化度（体内の老化物質の状況測定）や肌水分測定とハンドケア講習会を来局者に実施した。

体内糖化度測定では、測定結果をもとに食事や運動、生活習慣についてアドバイスをを行った。

また、薬局製剤の「しゅうじつ薬局U・E・Hクリーム」を用いてハンドケア講習会を行ったほか、薬や健康に関する悩みなどの相談にも応じた。さらに実習生が企画した「薬と食品相性チェック」の資料をもちいて、医薬品を正しく使用するための啓発活動を実践した。

参加者からは、「調理法を工夫して体内糖化を抑えたい」や「クリームを塗ると肌水分がすごく増えるのがわかったのでケアしたい」、「ハッサクが血圧の薬の作用に影響するとわかったので注意したい」などの感想が寄せられた。



地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	岡山市、公益財団法人岡山市公園協会、就実森の学校		
タ イ ト ル	めざせ！防災博士！		
実 施 者	松本かおり、薬学部5年生3名		
日 付	2022年9月4日	場 所	操山公園里山センター
対 象 者	小学1年生～6年生	参 加 人 数	約15名

概要（本文・写真・図等）

岡山市、公益財団法人岡山市公園協会、就実森の学校の3者は小学生を対象に、「めざせ！防災博士！」と題して毎年9月に防災に関する体験イベントを実施している。附属薬局職員と薬学部実務実習生も毎年参加し、災害時の衛生環境維持の大切さや体調管理の方法について講演や指導を行っている。

今年度は、附属薬局オリジナル非常持出袋を展示し、各物品の役割や使用方法についてクイズ形式で学べる企画を実施した。さらに、児童の各グループに実務実習生をリーダー役として配置し、毛布を使った担架体験、起震車体験や放水体験なども行った。

参加者からは、「災害時のトイレや歯磨きに注意することが体調維持に大切だとわかった」や「ミカンの香りの消毒用ジェルがいい匂いで使いたいと思った」などの感想が寄せられた。



<オリジナル非常持出袋クイズに答える児童の様子>



<毛布で作った担架で搬送する様子>

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主 催	就実大学薬学部 後援：岡山市教育委員会		
タ イ ト ル	こども薬剤師体験		
実 施 者	松本かおり、西山典子、吉井圭佑、竹内紗季、竹内真優、薬学部学生		
日 付	2023年3月25日	場 所	附属薬局
対 象 者	小学生（未就学児、中学生含む）	参加人数	約100名

概要（本文・写真・図等）

岡山市の児童・生徒のキャリア教育の一助となるように、附属薬局にて「こども薬剤師体験」として薬剤師業務の一部を体験する催しを行う。体験内容は、「錠剤の一包化体験」、「水薬の調剤体験」、「手洗いチェック」である。さらに「実際に就くプロジェクト」の活動として、薬学生による「アロマソープづくり」と「お砂糖クイズ」も実施する予定である。

（この催しは、2022年7月末に予定していたが、コロナ感染状況を鑑みて2023年3月末に延期になった。）

しゅうじつ薬局 お菓子的を使って薬局のお仕事を体験しよう！

こども薬剤師体験

参加無料

2023年3月25日（土）【A】9：00～12：00
【B】13：30～16：00

★対象：小学生（保護者同伴）※未就学児・中学生も参加可能
当日の参加も可（事前申し込み優先です）※定員（50名）に達し次第、終了予定

錠剤の一包化体験
機械を使って、錠剤にみたくお菓子をバック詰めしよう！

水薬の調剤体験
ジュースを使って、特製ドリンクを作るよ！どんなのができるかな？

手洗いチェック
手洗いチェッカーで洗い残しがないかチェックしよう！

アロマソープづくり お砂糖クイズ
飲み物やお菓子里にどれくらいお砂糖が入っているか分かるかな？

★薬学部学生企画

ご参加いただいたお子様にお菓子の詰め合わせプレゼント！
※事前申し込み優先
なくなり次第、終了

白衣を着て薬剤師に变身！
親子で写真撮影もできます！

【申し込み方法】
<STEP1> 下記の項目をメールに記載
① お子様のお名前・フリガナ・学年
② 当日連絡のできる電話番号
（イベント内容に変更があった場合、ご連絡いたします）
③ メールアドレス
（イベント前にご連絡いたします）
④ 参加を希望される時間帯（AまたはB）
⑤ メール表題に「こども薬剤師体験会 申し込み」と記載
<STEP2> sj-pharma@shujitsu.ac.jp へ送信
応募期間：2023年3月22日（水）まで

重要！
お子様のみでの参加はご遠慮下さい。新型コロナウイルス感染対策を徹底した上で実施します。当日はマスクを着用してご来局下さい。また、発熱がある方はご遠慮下さい。

就実大学薬学部附属薬局（しゅうじつ薬局）
〒701-1154 岡山市北区田益1291-1
TEL：086-294-9100 営業時間：月～金 8：30～18：00（祝日を除く）

主催：就実大学薬学部 後援：岡山市教育委員会

地域貢献報告書（学外組織との連携・協働）

主	催	岡山市立御津公民館		
タイトル	日本語教室			
実施者	野村照代			
日付	2019年10月～現在	場所	岡山市立御津公民館	
対象者	技能実習生、エンジニア他	参加人数	2～5名（N2受験相当）	

概要（本文・写真・図等）

本学人文科学部と相互連携協定を締結している岡山市立御津公民館において、毎月第2、第4日曜日に日本語教室で日本語教師ボランティア補助を行っている（有資格者）。学習者の方は、近隣の企業の技能実習生、エンジニア等で、2022年度はN2受験レベルを担当し、2名が2022年12月の JLPT N2 を受験した。出身はベトナム、インドネシア、中国等で、仕事や生活のために日本語を習得しなければならないため、非常に熱心に学習される。今年度は、この中から進学を希望する方がおられ、学習に一層熱が入った。

2022年度も新型コロナウイルス感染症防止として、消毒、換気等対策を講じて行った。

毎月第4日曜日の授業終了後に開催される交流会「多文化カフェ」では、学習者の方に母国の料理を作っていただいたり、日本の料理を作ったりしてみんなで試食し、相互に料理の文化を教え合ったりし、授業とともに楽しみながら学習している（新型コロナウイルス感染症防止のため、中止とした月もあった）。地域住民や県下の国際交流関係者も参加するなど、交流も活発である。

本学の社会教育主事課程の学生もこの間に感染防止対策を徹底した上で、屋内外で「多文化カフェ」に参画した。

【2022 年末の餅つき】



【ある日の授業風景】

地域連携・社会連携

地域貢献報告書（地域連携・社会連携）

主	催	人文科学部 博物館学芸員課程		
タ	イ	トル	岡山県内の文化財調査・博物館実習の受け入れ	
実	施	者	浅利尚民（博物館学芸員課程）	
日	付	下記参照	場	所
対	象	者	参加人数	下記参照
		本学学生（博物館実習）	2名	（博物館実習）
概要（本文・写真・図等）				
<p>本学人文科学部と岡山県立博物館との連携協定に基づき、同館からの依頼によって下記の文化財調査（彫刻）に浅利が同行しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年6月14日 両金阿弥陀堂（岡山県久米郡美咲町西川上 7438-1） ・2022年6月21日 黒田の地蔵菩薩（岡山県久米郡美咲町藤原 922） ・2022年8月17日 金山寺（岡山市北区金山寺 481） <p>同館副館長の横山定氏、学芸員の岡崎有紀氏とともに調査を行い、それぞれの作品の制作年代や特徴等に関して検討したのち、同館から依頼者様へ報告書が提出されました。</p> <p>また同館では2022年11月9日～11日、同15日～16日の5日間に渡り、改修工事で長期休館中のところ、連携協定に基づいて本学人文科学部4年生2名の博物館実習の受け入れをしていただきました。2名の学生は、資料の目録作成を中心とした博物館での実務に触れることができ、充実した実習を行うことができました。このような学びの機会を与えていただいた岡山県立博物館様、ならびにご尽力いただきました本学保健管理部、教務部、川崎剛志人文科学部長を始めとする教員の皆様方に心から感謝申し上げます。</p>				

地域貢献報告書（地域連携・社会連携）

主 催	人文科学部 博物館学芸員課程		
タ イ ト ル	御津町郷土歴史資料館の見学とディスカッション		
実 施 者	浅利尚民（博物館学芸員課程）		
日 付	2022年11月19日	場 所	下記参照
対 象 者	本学学生	参 加 人 数	22名

概要（本文・写真・図等）

2022年11月19日（土）の午前中に、博物館実習の一環として岡山市の岡山市御津歴史資料館に見学に訪れました。

本学人文科学部では、2019年度から岡山市立御津公民館と連携協定を結び、地域活性化につながるさまざまな活動を行っています。今回も同公民館の加門様のご協力のもと、地域の資料館の活動を学ぶために同資料館を訪れました。そして同館内では職員の内藤様から、御津の歴史、特徴、出身の人々の活躍や、地域の拠点の一つである同資料館の成り立ちなどについてお話をうかがいました。

午後に大学へ帰ってからは、地域の資料館や社会教育活動などについて、学生たちによるディスカッションと発表が行われました。実際の資料館を見学したことをふまえて、社会的な意義や課題などについて、より具体的に話し合っている姿が印象に残りました。

貴重な学びや鑑賞の場を提供いただき、ありがとうございました。



地域貢献報告書（地域連携・社会連携）

主 催	人文科学部 実践英語学科		
タ イ ト ル	岡山県立博物館との連携協定に基づく英語翻訳の取り組み		
実 施 者	武部好子（実践英語学科）・浅利尚民（表現文化学科）		
日 付	2022年6月27日	場 所	R301
対 象 者	岡山県立博物館・本学学生	参 加 人 数	22名

概要（本文・写真・図等）

2022年6月27日（月）、本学人文科学部と岡山県立博物館（岡山市北区）との連携協定に基づいて、昨年度に引き続き、実践英語学科「翻訳演習1」（担当：武部好子准教授）のクラスに岡山県立博物館の横山定副館長と西垣江利子学芸員をお招きしました。

日本刀に関する展示キャプションを英語に翻訳する受講生に対して、まず西垣学芸員が日本刀の構造や模様などの専門用語や作品の魅力について広範かつ具体的に解説を行ってくださいました。その後、受講生一人一人からの様々な質問にも丁寧にご回答頂きました。

最後に横山副館長より、岡山県立博物館と翻訳事業に関する説明を行って頂き、受講生たちにとって自分達の地道な翻訳活動が実社会とつながっていることを実感できる貴重な時間となりました。

ご協力くださった岡山県立博物館の横山定副館長と西垣江利子学芸員、表現文化学科の浅利尚民准教授と実践英語学科の受講生の皆様に感謝致します。



地域貢献報告書（地域連携・社会連携）

主 催	人文科学部 実践英語学科		
タ イ ト ル	林原美術館との連携協定に基づく英語翻訳の取り組み		
実 施 者	武部好子（実践英語学科）・浅利尚民（表現文化学科）		
日 付	2022年12月12日	場 所	R301
対 象 者	林原美術館・本学学生	参 加 人 数	14名

概要（本文・写真・図等）

2022年12月12日（月）、本学人文科学部と林原美術館（岡山市北区）との連携協定に基づいて、昨年度に引き続き、実践英語学科「翻訳演習2」（担当：武部好子准教授）のクラスに林原美術館の橋本龍主任学芸員をお招きしました。前半は『林原美術館名品選』解説文の英語への翻訳作業に取り組む受講生たちに対して、映像を交えながら明快に講義を実施して頂きました。

後半は、受講生一人一人から、普段は聞き慣れない語句の基本的な意味合いから江戸時代の生活様式に至るまで様々な質問を投げかけ、詳細にご回答頂きました。

普段から翻訳に熱心に取り組む受講生たちは、実際に自分たちの翻訳が展示される可能性があるという状況の中、何時にも増して意欲的な雰囲気にも包まれ、有意義な時間を過ごすことができました。

ご協力くださった林原美術館の橋本龍主任学芸員、表現文化学科の浅利尚民准教授と実践英語学科の受講生の皆様に感謝致します。



地域貢献報告書（地域連携・社会連携）

主 催	就実大学経営学部		
タ イ ト ル	倉敷市美観地区観光まちづくりワークショップ		
実 施 者	八巻 恵子		
日 付	2022年6月25日	場 所	倉敷美観地区
対 象 者	「フィールド調査論Ⅰ」履修者	参加人数	32名

概要（本文・写真・図等）

授業ではフィールドワークの手法を学び、事前調査、本調査、調査結果のまとめという形式で地域調査を実施した。倉敷美観地区の景観保全と空き家対策に取り組んでいる NPO 法人倉敷町家トラスト、地域おこし協力隊隊員との連携で、フィールドワークとワークショップを実施し、美観地区における持続可能な観光まちづくりについて意見を出し合った。



地域住民によるこれまでの美観地区の景観保全のとりくみの経緯を聞き、地域固有の文化を商品化して観光客に伝えるしくみと高梁川流域圏の地域経済の循環について理解を深めた。空き家問題、少子高齢化によるコミュニティの弱体などの課題解決の一つの方法として、2つの学生グループが NPO と連携して着地型観光商品づくりに取り組み、備中町並みネットワーク主宰、第20回おかやま県民文化祭参加事業の『備中 no 町屋 de クラス』に採択された。11月12日（土）「インスタ映えの贈り物」、11月26日（土）「町屋再生はじめての一步—この一軒が未来を創る」の2つのまちあるきツアーを企画・運営した。



地域貢献報告書（地域連携・社会連携）

主 催	就実大学経営学部		
タ イ ト ル	高梁市3大学合同フィールドワーク		
実 施 者	八巻 恵子		
日 付	2022年6月25日	場 所	高梁市市街地、吹屋ふるさと村
対 象 者	「フィールド調査論Ⅱ」 履修者他	参 加 人 数	32名

概要（本文・写真・図等）

就実大学経営学部、和歌山大学観光学部、吉備国際大学の3大学の合同フィールドワーク、ワークショップ、合宿を企画・開催した。テーマは観光まちづくりと地域振興で、高梁市観光協会から情報提供を受けて市街地を歩いた。吹屋銅山跡と吹屋ふるさと村では近代産業史をたどって「村長」による説明を受けながら地域を歩いた。銅鉦とベンガラの地域資源を日本遺産とする観光振興について、景観保護、空き家再生、移住促進などいくつかの地域課題について学び、地域住民と意見交換を行った。



移住者のワークショップは宇治エリアで商家の古民家を購入しDIYで再生しながら起業した「古民家カフェ茶蔵」と、吹屋で長年営業してきた食堂を経営した「二代目ふるさと村休憩所 吹屋食堂」の経営者らと意見交換をした。少子高齢化と過疎化が進む地域に都市から移住してきた経緯、地域コミュニティとのコミュニケーション、起業のプロセス、働き方、ライフプランなどについて意見交換を行った。



このフィールドワーク合宿は一般社団法人社会調査協会の助成を受けて実施したものである。大学に戻ってグループ討議を継続し、作成した調査報告書は関係各所に提出した。

地域貢献報告書（地域連携・社会連携）

主	催	就実大学経営学部		
タ	イ	ト	ル	空き家再生プロジェクト、合同フィールドワーク
実	施	者	八巻 恵子	
日	付	2022年6月～12月	場	所 香川県直島町
対	象	者	参加人数	のべ30名

概要（本文・写真・図等）



直島はアートの島として観光振興とインバウンド観光で成功を収めている一方で、少子高齢化と過疎化が進み、空き家も増加している。それらをアート作品として再生したり、ゲストハウスや飲食店に改装する事例は多い。

本プロジェクトは、直島の100年古民家の空き家の活用方法について考えるもので、家主は都市部に移住した本学の退職教員である。家主（個人事業者）と株式会社シャンテが協働して再生活用する事業計画が進行中である。学生はこの計画に関与しながら空き家の利用と古民家再生による地域振興を考えた。6月～12月にかけて断続的に現地訪問し、古民家の掃除や片付け、庭の手入れを行い、周辺エリア、観光地のフィールドワークを行なった



9月には空き家再生に興味を持つ和歌山大学観光学部の学生たちと合同フィールドワークを行った。株式会社シャンテの主軸となる事業はホテル再生事業で、岡山県内ではアルベルゴ・ディフーズ（分散型ホテル）の手法を導入し地域振興に大きく貢献している。空き家の調査に同行し、古民家の見方、周辺エリアの見方、宿泊施設づくりの方法と資源活用案、古民家に残された食器や小物をフリーマーケットに出すコツなどについて解説を受けた。直島観光の中心地で展開する「家プロジェクト」を歩き、空き家のアート活用方法を考察した。学生は地域の交流人口を増加させるような観光地づくりを念頭に置きながら、持続可能な地域づくりを考え、12月に報告会を開催した。

地域貢献報告書（地域連携・社会連携）

主	催	薬学部 薬学科		
タイトル	実務実習事前学習・静脈注射輸液実習（テルモ株式会社との連携）			
実施者	毎熊隆誉, 北村佳久, テルモ株式会社担当者			
日付	2022年5/23, 24, 27	場所	就実大学 P101, P102	
対象者	本学薬学科4年生	参加人数	76名	
概要（本文・写真・図等）				
<p>薬学科4年生が臨床準備教育として、静脈注射や輸液に関する必要な知識と技術を学修した。</p> <p>薬学科4年生76名を、約25名ずつの3グループに分けて、5/23、5/24、5/27において15:00～18:00の約3時間、就実大学P館1階において実習を行った。</p> <p>実習その①「静脈注射の器材の見聞体験」</p> <p>約5名の学生グループに分かれてグループごとに注射針、輸液チューブを実際に触りながら特徴を見聞体験した。</p> <p>実習その②「点滴の投与に関わる輸液ポンプと自然滴下体験」</p> <p>グループごとに輸液セットに薬液を満たし（プライミング体験）、クレンメにより投与速度を調整する体験をした。</p> <p>実習その③「注射剤・輸液関連の事象事例体験」</p> <p>注射針、注射筒に関する破損等の事象事例体験を行った。</p> <p>実習その④「静脈注射と採血の体験」</p> <p>腕シミュレーターを用いて、留置針の穿刺と採血の体験を行った。</p>				
				

地域貢献報告書（地域連携・社会連携）

主	催	薬学部 薬学科		
タイトル	就実大学薬学部附属薬局研修（ユースキン製薬株式会社との連携）			
実施者	毎熊隆誉, 吉井圭佑, 松本かおり, 柴田隆司			
日付	2022年5月28日	場所	就実大学薬学部附属薬局	
対象者	本学薬学科1年生	参加人数	100名	

概要（本文・写真・図等）

薬学科1年生が附属薬局を見学し、保険薬局の施設・設備探検と健康関連商品の使用体験を通じて地域住民の健康増進に関わる薬局の機能と薬剤師の役割について学修した。

薬学科1年生100名を、約30名ずつの3グループに分けて、8:30、12:00、および14:00より各90分の研修を岡山市北区田益にある就実大学薬学部附属薬局において研修を行った。

研修内容その①「薬局の施設・設備探検」

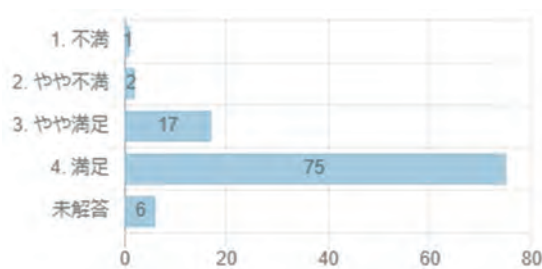
約6名の学生グループ学習として、薬局内18ヶ所設備の写真と現物を対応させて、その設備の機能や使用される場面について見聞しワークシートを作成した。

研修内容その②「ハンドクリームを用いたスキンケア体験」

ユースキン製薬株式会社による協力のもと、ハンドクリーム「ユースキンAa」を実際に手指に適用する体験を通して、地域住民の健康増進に関わる薬剤師の役割について学修した。

実施後アンケートにおいても、入学して間もないころに薬局の中身を直接見学体験できることは貴重な体験であったとの声もあり、参加学生の満足度も高かった。

図：しゅうじつ薬局研修を終えての満足度



地域貢献報告書（地域連携・社会連携）

主 催	薬学部 薬学科		
タ イ ト ル	実務実習事前学習・実践服薬指導実習 (NPO 法人岡山 SP 研究会との連携)		
実 施 者	毎熊隆誉, 吉井圭佑, 出石恭久, 松本かおり, 岡山 SP 研究会模擬患者		
日 付	2022年6/6, 7, 13, 14	場 所	就実大学薬学部附属薬局
対 象 者	本学薬学科4年生	参 加 人 数	76名

概要（本文・写真・図等）

薬学科4年生が臨床準備教育として、薬学部附属薬局において模擬患者との医療面接を実施し、医療現場の臨場感をもって、薬剤師として必要な知識と態度を学修した。

薬学科4年生76名を、約20名ずつの4グループに分けて、6/6、6/7、6/13、6/14において14:30～17:30の約3時間、岡山市北区田益にある就実大学薬学部附属薬局において実習を行った。

実習その①「処方箋シナリオによる医療面接」

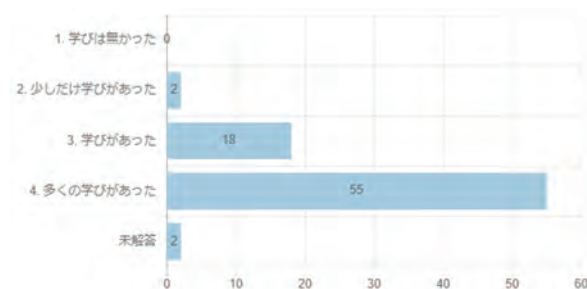
約6名の学生グループに分かれて2人ペアで約10分間の面談を行った。異なる処方せんを持参した3人の模擬患者に対して、処方せんの受付の場面と調剤した医薬品の服薬指導の場면을体験し、模擬患者からのコメントを含めて約8分間の振返りを含むセッションを行った。

実習その②「市販薬OTCの販売を伴う医療面接」

約20名の内、代表学生2名が、市販薬を求めて薬局を訪れた患者あるいは家族より、現在の症状を聴取し、市販薬を選択し、使用説明を行って販売する場면을体験した。代表学生以外は、別室よりカメラ映像を見ながら学修した。

実施後アンケートにおいても、実際の医療現場で行う実習は臨場感があり、模擬患者参加型の実習は回答したすべての学生が学びを実感していた。

図：実践服薬指導実習を終えて実感した学生の学び



出 前 授 業

所 属 (学部・学科)	幼児教育学科		
タ イ ト ル	「これからの時代を生きていく君たちに必要なこと (キャリア教育)」		
講 師	小谷彰吾		
日 付	2022年7月27日	場 所	岡山県立玉野高校
対 象 者	2年生	参加人数	40名
<p>(概 要) 「生きている」「生かされている」ことは当たり前のことではなく、奇跡的な事であり、そのことに対して感謝の念を持つことで、だからこそ自分にできる事、多くの人のために、社会の為に何ができるかを考える事ができる。一人ひとり、自分にしかできない素晴らしい力に磨きをかけて「しなやかに」「たくましく」生きていくことが必要である。</p>			

所 属 (学部・学科)	教育・初等教育		
タ イ ト ル	国語の授業をつくってみよう		
講 師	丹生裕一		
日 付	2022年10月27日	場 所	愛媛県立丹原高等学校
対 象 者	高校2年生	参加人数	12名
<p>(概 要) 小学校1年生の「説明的文章を読む」授業づくりをさせた。教材を示し、授業づくりの手順とコツを教えて、各受講生に、授業展開を考えて簡単な指導案を書かせた。それぞれのアイディアを共有して、よい部分を指摘し、改善の具体案を示した。</p>			

所 属 (学部・学科)	教育心理学科		
タ イ ト ル	ストレスとうまく付き合おう		
講 師	石原みちる		
日 付	2022年10月31日	場 所	岡山県立岡山一宮高校
対 象 者	高校2年生	参加人数	42名

(概要) 保健ロングホームルームにて、コロナ禍の子供のストレスや、ストレスの仕組み、認知的評価、相談することで対処が広がることをワークを交えて伝えた。当該高校の卒業生である教育学研究科・臨床心理学コースの学生が作成した動画を用いたため、より興味をもって聞いてもらえた。

所 属 (学部・学科)	人文科学部実践英語学科		
タ イ ト ル	アメリカ文化と音楽		
講 師	ローレンス ダンテ		
日 付	2022年12月13日	場 所	岡山県立笠岡高等学校
対 象 者	1・2年次生	参加人数	14名
<p>(概要) 「アメリカ文化と音楽」を題とした出前授業を行いました。アメリカの社会変化が音楽にどのような変化を及ぼしたか、どのようなテーマがるのかなどについて講義しました。高校生が真面目に参加してくれました。</p>			

所 属 (学部・学科)	人文科学部		
タ イ ト ル	身体で伝える、身体で語る		
講 師	岡本 悦子		
日 付	2022年12月14日	場 所	岡山県立総社南高等学校
対 象 者	総社南高校2年生	参加人数	40名
<p>(概要) マスクで顔面の表情が見えない時間が増えたからこそ「全身を使って」表現してみよう、今こそ「使わないと衰える伝える力と読み取る力にアプローチ」を趣旨に実技講習を行った。大変活気のある受講者の皆さんで、担当の先生からは「自ら表現しようという生き生きとした様子がみられおもしろいなあと感じました」というご感想をいただきました。あらためて御礼申し上げます。</p>			

所 属 (学部・学科)	経営学部経営学科		
タ イ ト ル	「観光学入門」		
講 師	八巻恵子		
日 付	2022年12月14日	場 所	岡山県立総社南高等学校
対 象 者	高校2年生	参加人数	50名

(概 要)

大学入試を考える高校生に向けて、大学で学ぶ観光学を紹介した。

観光学は学問領域を横断する分野であるが、経営学部で学ぶ観光学入門として観光マネジメント講義の概要を紹介した。

日本政府が「観光立国宣言」を行って以来、観光産業は日本経済を動かす強力なエンジンとして認識されている。その柱としてインバウンド観光の促進は絶対であるが、具体的には国内に内包する多様な文化資源を商品化していく必要がある。つまり地方こそが地域資源に磨きを掛けて魅力ある観光商品を創造していくことが政策として求められている。それは同時に地方の人口流出、少子高齢化、空き家や過疎化の問題を解決する方法でもあり、観光とまちづくりは今や切っても切れない課題である。観光を基軸とした持続可能なまちづくりは「稼げる地域」づくりを考える地域経営のノウハウととらえるのが経営学から見た観光地域づくりである。

この授業では、事例として総社市が地域活性化と市のPRを目的として商品化した「そうじゃ小学校カレー」を取り上げた。写真は東京国際空港（羽田空港）に設置されている「ご当地販売機」である。全国の名産品が並ぶ中、総社市の販売機においては17の小学校の給食のカレーをレトルトパックにして販売している。この商品を空港利用者に知ってもらい販売数を伸ばすこと、地域資源を商品化し観光まちづくりに活用することについて解説した。



所 属 (学部・学科)	薬学部・薬学科		
タ イ ト ル	知ってほしい！薬物乱用の怖さ		
講 師	加地 弘明		
日 付	R5年 2月 6日	場 所	吉備高原学園高等学校
対 象 者	1年生・2年生	参加人数	約150名

(概 要) グループワークや実験・実験映像などを織り交ぜながら、高校生にわかりやすい薬物乱用防止教育として、違法薬物の怖さに関する解説授業のみならず、医薬品の誤った使用や未成年における喫煙や飲酒も、違法薬物に手を染めるきっかけとなりうることについて説明した。

講師の派遣

所 属	人文科学部表現文化学科	職 位	教授	氏 名	川崎 剛志
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年9月10日	正宗文庫セミナー		岡山の知識人との交遊と収書 ー正宗文庫 塚本吉彦旧蔵書をめぐってー		

所 属	人文科学部表現文化学科	職 位	准教授	氏 名	浅利 尚民
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年11月12日	豊橋市教育委員会		岡山藩主池田家と豊橋		

所 属	人文科学部実践英語学科	職 位	准教授	氏 名	D. タウンゼンド
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年9月16日 (オンライン)	岡山県立新見高等学校南校地		日本語で使われている外来語を例に挙げて、その外来語がどこの国の言葉なのかを予想し、英語ではどのように言うのかを学習した。		

所 属	教育学部初等教育学科	職 位	教授	氏 名	楠 博文
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年6月16日	高梁市立中井小学校		研究授業の指導助言		
2022年7月28日	井原市立西江原小学校		講演「主体的に学ぶ算数の授業づくり」		
2022年8月17日	倉敷市教育委員会・倉敷市小学校教育研究会算数部会		講演「算数の本質に迫る授業のつくり方」		
2022年8月19日	浅口市立金光吉備小学校		学習指導案検討会の指導助言，算数の授業づくりについての講話		
2022年8月22日	高梁市立中井小学校		学習指導案検討会の指導助言		
2022年8月25日	高梁市立中井小学校		学習指導案検討会の指導助言		
2022年9月5日	高梁市立中井小学校		研究授業の指導助言，本発表の学習指導案検討		
2022年9月20日	浅口市立金光吉備小学校		研究授業の指導助言		
2022年10月28日	高梁市教育委員会・高梁市立中井小学校		講演「算数を楽しむ教師になるために」		
2022年11月8日	浅口市立金光吉備小学校		研究授業の指導助言		
2022年12月2日	井原市立西江原小学校		研究授業の指導助言		

所 属	教育学部初等教育学科	職 位	教授	氏 名	門原 眞佐子
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年6月3日	真庭市健康福祉部子育て支援課		よりよい園運営をするために		
2022年11月11日	真庭市健康福祉部子育て支援課		よりよい園運営をするために 真庭市の課題から見えてくるもの		

所 属	教育学部初等教育学科	職 位	教授	氏 名	小西 淳子
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年8月3日	岡山市岡山っ子育て成局 保育・幼児教育部 幼保運営課		保育力アップ研修講座【指導計画の作成】 『子どもの思いや願いを実現する指導計画』		
2022年10月31日	岡山市岡山っ子育て成局 保育・幼児教育部 幼保運営課		乳児保育研修講座 『意欲や好奇心の芽生えを育む乳児保育』		
2023年2月17日	ハローワーク岡山		保育士就職応援セミナー 『今、保育者に求められること』		

所 属	教育学部初等教育学科	職 位	教授	氏 名	岡田 信吾
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年4月21日	倉敷市教育委員会		新任特別支援教育コーディネーター研修Ⅰ		
2022年5月26日	岡山県総合教育センター		高等学校の特別支援教育		
2022年6月7日	岡山市教育委員会		新任特別支援教育コーディネーター研修		
2022年6月14日	倉敷市教育委員会		新任特別支援教育コーディネーター研修Ⅱ		
2022年11月9日	岡山東支援学校		研究授業の指導・助言		

所 属	教育学部初等教育学科	職 位	講師	氏 名	田中 修敬
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年11月11日	岡山市立三勲幼稚園PTA		子どもが自分らしくあるために～私たち大人にできること～		
2023年2月4日	牛窓ルンビニ保育園		子どもが自分らしくあるために～私たち大人にできること～		

所 属	教育学部教育心理学科	職 位	教授	氏 名	石原 みちる
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年5月20日	就実高等学校・中学校 PTA なでしこ会		思春期の子供の心～親の心子知らず，子の心親知らず～		
2022年7月19日	岡山県総合教育センター		コンサルテーションについて		
2022年11月19日	総社市地域自立支援協議会 こどもに寄り添う連絡会		思春期のこどもの心		

所 属	教育学部教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	加納 亜紀
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年7月25日	岡山県中学校教育研究会養護部会		「みんなができる校内救急体制の確立」研修会講師（実践研究の指導助言）		
2022年8月9日	岡山県中学校教育研究会養護部会		研究発表の指導助言及び講話「養護教諭の執務に生かす研究的視点」		
2022年10月25日	岡山県中学校教育研究会浅口・小田支部養護部		養護教諭から日常の執務に生かす研究的視点～実践を研究にしていこうために～」研修会講師		
2023年1月17日	岡山県中学校教育研究会浅口・小田支部養護部		実践研究の指導助言		

所 属	教育学部教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	井芹 聖文
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年6月2日	岡山県教育委員会		スクールカウンセリング事始め		
2022年10月19日	大学コンソーシアム岡山・山陽新聞社		「親には内緒」への関わり方～秘密への心理学的アプローチ～		
2022年11月8日	岡山県立岡山城東高等学校		悩んだときの心の持ち方		

所 属	教育学部教育心理学科	職 位	講師	氏 名	堀田 裕司
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年8月5日	岡山県立玉野高校		起立性調節障害の理解と対応		
2023年3月3日	岡山県立玉野高校		悪いほうに考えてしまうクセを修正しよう！～こころがちょっと楽になる方法～		

所 属	経営学部経営学科	職 位	教授	氏 名	林 俊克
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年4月20日	岡山県立岡山操山高等学校		生きていく私 -これからの人生をどう生きていくか-		

所 属	経営学部経営学科	職 位	講師	氏 名	大塚 祐一
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年8月18日	岡山県産業労働部		SDGsと中小企業-企業と社会の持続可能な発展に向けて-		

所 属	薬学部薬学科	職 位	教授	氏 名	中西 徹
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年8月25日	岡山県立岡山操山中学校		課題学習の進め方と評価方法		
2023年1月25日	岡山スーパー大学院事務局		再生医療と人権		
2023年2月10日	岡山県立岡山操山中学校		課題研究発表（ポスターセッション）実施と審査		

所 属	薬学部薬学科	職 位	教授	氏 名	塩田 澄子
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年10月23日	薬剤師あゆみの会、富永調剤薬局		基礎薬学から見た感染症治療		
2023年1月29日	第41回生涯学習の集い まなびフェスタinいばら		これで安心！with コロナ社会の感染対策～正しく知って正しく防ごう～		

所 属	薬学部薬学科	職 位	教授	氏 名	末丸 克矢
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年12月18日	令和4年度健康食品管理士・食の安全管理士会中国支部研修会		令和4年度健康食品管理士・食の安全管理士会中国支部研修会		

所 属	薬学部薬学科	職 位	教授	氏 名	平岡 修
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年11月4日	岡山県立西大寺高校		薬物乱用防止教室		
2022年11月30日	岡山市立石井中学校		薬物乱用防止教室		

所 属	薬学部薬学科	職 位	教授	氏 名	島田 憲一
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年3月11日	播磨町消費者協会		健康食品と医薬品の違い		

所 属	薬学部薬学科	職 位	准教授	氏 名	加地 弘明
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年4月2日	高島おひさまこども園・つしま幼稚園		エピペン講習会		
2022年11月16日	吉備中央町福祉課		「お薬のおはなし」		
2023年2月28日	曾根小学校		「みんなで知ろう！危険ドラッグのこと」		

所 属	薬学部薬学科	職 位	准教授	氏 名	毎熊 隆誉
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年9月11日	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会		日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会第16回大会大会長講演；薬剤師の強みを生かした多職種との新たな協働		
2022年11月13日	一般社団法人 岡山県薬剤師会		令和4年度薬学講習会 「第2回：アンケート調査を行うためのワークショップ」；日常業務を調査・解析するときの肝心カナメ		

所 属	薬学部薬学科	職 位	講師	氏 名	山田 陽一
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年7月14日	バイオインダストリー協会		ウイルスを短時間で不活性化できるコーティング技術		

所 属	薬学部薬学科	職 位	講師	氏 名	河野 奨
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年8月18日	岡山市男女共同参画社会推進センター さんかく岡山		未来のリケジョ応援プロジェクト 薬剤師さんになってみよう		
2022年9月18日, 19日	薬学教育協議会		第61回 薬学教育者ワークショップ中国・四国in 岡山		
2022年12月15日	旧高富小学校区みんなで支え合う地域づくり協議会		地域飛び出せ大学生事業 「薬を飲む時の工夫」		

所 属	薬学部薬学科	職 位	講師	氏 名	田坂 祐一
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年7月8日	武蔵野大学 薬学部		薬剤師の業務と臨床生化学		
2022年8月20日	第8回 日本医薬品安全性学会 学術大会		プレアボイドの実践によるDSD/DSSPの取得と教育・研究を通じた医療への貢献		
2023年1月21日	宮城県病院薬剤師会		プレアボイドに着目した薬剤疫学研究		

所 属	薬学部薬学科	職 位	助教	氏 名	石崎 厚
実施日	事業主催者		タイトル		
2023年1月18日	箕島小学校		薬物乱用防止教室		

所 属	薬学部薬学科	職 位	助教	氏 名	吉井 圭佑
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年10月2日	岡山県薬剤師会		調剤業務のあり方について		
2023年3月24日	岡山県病院薬剤師会		救急時の栄養管理について (仮)		

所 属	短期大学幼児教育学科	職 位	教授	氏 名	ズビャーギナ 章子
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年7月3日	旧旭東幼稚園園舎 (八角園舎)		ワークアウト×心理学講座「心と身体のリラクゼーション&呼吸法」		

所 属	短期大学幼児教育学科	職 位	教授	氏 名	小谷 彰吾
実施日	事業主催者	タイトル			
2022年6月9日	就実高等学校	進路ガイダンス講師			
2022年6月11日	倉敷市立教育委員会	倉敷市立呉妹小学校教育講演会講師			
2022年6月22日	玉野市教育委員会	玉野市立大崎小学校教育講演会講師			
2022年6月25日	倉敷市教育委員会	倉敷市立柳井原小学校教育講演会講師			
2022年6月27日	笠岡市こども課	笠岡市就学前教育保育者研修会講演会講師			
2022年7月19日	岡山県立玉野高等学校	出前講座キャリア教育講師			
2022年8月1日	岡山県小学校教育研究会井原支部	特別活動班会指導助言講師			
2022年9月13日	新見市教育委員会	新見市立刑部小学校教育講演会講師			
2022年10月13日	新見市教育委員会	新見市立塩城小学校教育講演会講師			
2022年10月14日	鳥取市教育委員会	鳥取市道徳推進教師研修会講師講師			
2022年10月19日	岡山中学高等学校	岡山中学高等学校教育講演会講師			
2022年10月28日	倉敷市教育委員会	倉敷市立茶屋町小学校教育講演会			
2022年11月11日	岡山龍谷高校	進路ガイダンス講師			
2022年12月1日	美咲町教育委員会	美咲町立中央小学校教育講演会			
2022年12月2日	美咲町教育委員会	美咲町立柵原西小学校教育講演会			
2022年12月13日	岡山県立岡山工業高等学校	校内道徳研修会講師			
2022年12月15日	早島町生涯学習課	早島町人権教育講演会①			
2023年1月25日	早島町生涯学習課	早島町人権教育講演会②			

所 属	短期大学幼児教育学科	職 位	教授	氏 名	柴川 敏之
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年3月21日	真庭市		アーティストトーク「ようこそ、2000年後の蒜山博物館へ」		
2022年5月22日	真庭市		ワークショップ「2000年後のまにわを発掘しよう！」		
2022年5月23日	真庭市		ワークショップ「2000年後の落合小学校を発掘しよう！」		
2022年5月27日	真庭市		ワークショップ「2000年後のひるぜんを発掘しよう！」		
2022年5月28日	真庭市		ワークショップ「2000年後のひるぜんを発掘しよう！」		
2022年8月10日	ハニードロップスキび		ワークショップ「2000年後の化石ランプを作ろう！」		
2022年11月19日	金沢市民芸術村		トークイベント「アートな仕事ークvol. 8 アート×家庭、2000年後を想像する」		

所 属	短期大学幼児教育学科	職 位	准教授	氏 名	三好 年江
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年7月12日	倉敷市保育協議会（園長・副園長研究部会）		保育実践研究について（対話を通じた園内研修）		
2022年8月5日	久米苫田地区保育協議会		保育実践研究について（主体性を育むー頑張る力に注目してー）		
2022年9月8日	倉敷市保育協議会（5歳児研究部会）		保育実践研究について（協同性を育む保育）		
2022年10月25日	総社市保育協議会		保育における帳簿の捉え方・書き方		
2022年12月16日	高梁市教育委員会		子どもの見方が変わると保育が変わる		
2023年3月7日	奈義町子育て等支援施設 なぎチャイルドホーム		自主保育「たけの子」の取り組みについて		

所 属	短期大学幼児教育学科	職 位	准教授	氏 名	荊木 まき子
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年7月3日	旧旭東幼稚園園舎（八角園舎）		ワークアウト×心理学講座「心と身体のリラクゼーション&呼吸法」		

所 属	短期大学幼児教育学科	職 位	准教授	氏 名	松本 希
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年5月7日	旧旭東幼稚園園舎（八角園舎）		親子運動あそび		
2023年3月4日	旧旭東幼稚園園舎（八角園舎）		親子運動あそび		

所 属	短期大学幼児教育学科	職 位	准教授	氏 名	鎌田 雅史
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年10月20日	岡山県立矢掛高等学校		2022年度 3年生やかげ学 『プレゼン作成トレーニング』		

所 属	短期大学幼児教育学科	職 位	講師	氏 名	山下 世史佳
実施日	事業主催者		タイトル		
2022年5月16日、6月20日、7月11日、12月26日、2023年1月16日、2月13日	カラコエ松新町、株式会社ひかり薬局		楽しい音楽療法ーおかやまオレンジカフェ（認知症カフェ）		

所 属	短期大学生生活実践科学科	職 位	教授	氏 名	加藤 美奈子
実施日	事業主催者		タイトル		
2023年3月18日（2022年8月13日中止による代替実施）	吉備路文学館		講演会「与謝野寛（鉄幹）・晶子の岡山への旅」		

所 属	薬学部附属薬局	職 位	管理薬剤師	氏 名	松本 かおり
実施日	事業主催者	タイトル			
2022年10月27日	岡山市立桃丘小学校	薬物乱用防止教室			
2023年2月5日	(一社)岡山県医薬品登録販売者協会	胃痛及び腹痛(便秘を伴わない)の市販薬選択			
2023年2月21日	岡山市立馬屋上小学校	薬物乱用防止教室			

所 属	就実大学薬学部附属薬局	職 位	薬剤師	氏 名	西山 典子
実施日	事業主催者	タイトル			
2022年9月18日・19日	一般社団法人 薬学教育協議会	第61回薬学教育者ワークショップ中国・四国in岡山 タスクフォース			

所 属	国際交流課	職 位	係長	氏 名	野村 照代
実施日	事業主催者	タイトル			
2023年2月14日	学校法人 大阪滋慶学園	マナー講座—これから社会へ巣立つ皆さんへ—			

各種学外委員会の応嘱

所 属	人文科学部表現文化学科	職 位	教授	氏 名	岡本 悦子
内 容				期 間	
おかやまアーツフェスティバル実行委員会（委員長→体調不良により途中から副委員長）				2022年4月～現在	
岡山県現代舞踊連盟顧問				2002年4月（設立）理事、2005年～副会長、2009年～2011年会長を経て現在顧問	
DANCE ALIVE 実行委員会アドバイザー				2016年4月～アドバイザー	
岡山県女子体育連盟会員				2012年4月（設立）～2021年度まで会長	
子どもの社会参加を考える会in京山（チューリップの会）副会長				2008年4月（設立）～副会長	

所 属	人文科学部表現文化学科	職 位	教授	氏 名	川崎 剛志
内 容				期 間	
国文学研究資料館 地域資料専門部会委員				2018年4月1日～現在	
日本山岳修験学会 理事				2013年10月1日～現在	
仏教文学会 委員				2020年4月1日～現在	
国際熊野学会 委員				2018年4月1日～現在	
国宝智証大師関係文書典籍保存活用専門委員会 委員				2021年12月～現在	

所 属	人文科学部表現文化学科	職 位	准教授	氏 名	浅利 尚民
内 容				期 間	
閑谷学校研究委員会委員				2009年4月1日～現在	
尾道市史編集委員会文化財専門部会執筆者				2018年4月1日～現在	
岡山県文化財保護協会理事				2020年9月14日～現在	
倉敷市立美術館美術資料選考評価委員				2021年12月1日～現在	
岡山市文化財保護審議会委員				2023年1月～現在	

所 属	人文科学部総合歴史学科	職 位	教授	氏 名	井上 あえか
内 容				期 間	
日本国際政治学会倫理委員				2020年11月～2022年11月	
日本南アジア学会会計監査				2020年9月～2022年9月	
日本南アジア学会理事				2022年9月～2024年9月	

所 属	人文科学部総合歴史学科	職 位	准教授	氏 名	渡邊 将智
内 容				期 間	
日本秦漢史学会理事				2019年11月～現在	
三国志学会評議員				2017年9月～現在	

所 属	人文科学部総合歴史学科	職 位	准教授	氏 名	松崎 博子
内 容				期 間	
日本図書館文化史研究会運営委員				2007年4月1日～現在	
岡山市社会教育委員会議委員				2021年10月1日～2023年9月30日	

所 属	教育学部初等教育学科	職 位	教授	氏 名	楠 博文
内 容				期 間	
岡山県小学校教育研究会岡山支会算数部会 顧問				2016年4月1日～現在	

所 属	教育学部初等教育学科	職 位	教授	氏 名	門原 眞佐子
内 容				期 間	
令和4年度岡山県・岡山市教員等育成協議会委員				2022年11月7日～2023年3月31日	

所 属	教育学部初等教育学科	職 位	教授	氏 名	小西 淳子
内 容				期 間	
岡山市問題行動等対策委員会委員				2021年6月1日～2023年5月31日	

所 属	教育学部初等教育学科	職 位	教授	氏 名	岡田 信吾
内 容				期 間	
岡山西支援学校学校運営協議会委員長				2022年4月1日～2023年3月31日	
岡山聾学校学校運営協議会委員				2022年4月1日～2023年3月31日	
倉敷市特別支援教育専門相談員				2022年4月1日～2023年3月31日	

所 属	教育学部初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	津島 靖子
内 容				期 間	
日本LD学会編集委員				2022年6月1日～現在	

所 属	教育学部教育心理学科	職 位	教授	氏 名	鈴木 国威
内 容				期 間	
日本双生児研究学会幹事				2023年1月1日～現在	

所 属	教育学部教育心理学科	職 位	教授	氏 名	石原 みちる
内 容				期 間	
岡山県教育委員会スクールカウンセラー配置事業 スーパーバイザー				2022年4月1日～2023年3月31日	

所 属	教育学部教育心理学科	職 位	教授	氏 名	桑原 晴子
内 容				期 間	
一般社団法人岡山県薬剤師会倫理審査委員会委員				2021年6月1日～2023年5月31日	

所 属	教育学部教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	永田 忍
内 容				期 間	
日本心理臨床学会 心理臨床学研究 編集委員				2022年10月1日～現在	

所 属	教育学部教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	井芹 聖文
内 容				期 間	
公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会臨床心理士養成のための大学院指定事業特別協力委員				2022年7月1日～2023年3月31日	
岡山県人権政策審議会委員				2022年3月17日～現在	
岡山県警察本部犯罪被害者等カウンセリングアドバイザー				2019年9月1日～現在	
岡山県教育委員会スクールカウンセラー配置事業スーパーバイザー				2020年4月1日～現在	
岡山市教育委員会学校問題解決サポート事業専門相談員				2022年4月1日～現在	
岡山県公認心理師・臨床心理士協会幹事				2021年7月19日～現在	

所 属	教育学部教育心理学科	職 位	講師	氏 名	堀田 裕司
内 容				期 間	
日本産業ストレス学会 産業心理職委員会 委員				2021年4月～現在	

所 属	経営学部経営学科	職 位	教授	氏 名	古塚 秀夫
内 容				期 間	
中国地域ニュービジネス大賞表彰にかかる審査会委員 (一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会主催)				2022年5月1日～2023年4月30日	

所 属	経営学部経営学科	職 位	教授	氏 名	林 俊克
内 容				期 間	
岡山市経済政策審議会委員				2021年11月15日～2022年11月14日	
WWL (ワールドワイドラーニング) コンソーシアム構築 支援事業運営指導委員会委員				2022年08月1日～2023年3月31日	

所 属	経営学部経営学科	職 位	教授	氏 名	千田 雅之
内 容				期 間	
農林水産省農産局総務課生産推進室関係事業に係る選定 審査委員会委員				2022年5月1日～2024年3月31日	
阿蘇周年放牧エコフィールド生産安定供給検討会委員				2022年10月1日～2024年3月31日	
水田を活用した飼料作物利用拡大事業に係る業務委託 (岡山県)				2022年10月1日～2024年3月31日	
津山市食肉処理センターにかかる有識者懇談会委員				2023年2月1日～2023年3月31日	

所 属	経営学部経営学科	職 位	教授	氏 名	八巻 恵子
内 容				期 間	
進化経済学会 観光学研究部会幹事				2022年6月～現在	
グローバル・ビジネス人類学サミット 役員会メンバー (Board memtber of The Global Business Anthropology Summit)				2021年6月～現在	
独立行政法人日本学術振興会 特別研究員等審査会専門 委員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員				2020年7月～2022年6月	
シュプリンガー・ジャパン Translational Systems Sciences編集委員				2020年6月～現在	
岡山市中区 区づくり推進事業審査会委員				2020年6月～現在	
一般財団法人 矢掛町観光交流推進機構 評議員				2019年4月～現在	
社会・経済システム学会 理事				2015年4月～現在	
高梁川流域の企業文化「龍の仕事展」実行委員				2015年4月～2022年3月	
全国医師会医療秘書学院連絡協議会 運営委員				2014年6月～2019年3月	
備前市まち・ひと・しごと創生懇談会 委員				2015年4月～2017年3月	
世界コスプレサミット学術委員会 委員				2014年4月～現在	
国際人類学民族科学連合企業人類学委員会、副委員長 (Duputy Chair, Commission on Enterprises Anthropology International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, IUAES)				2013年8月～現在	
諏訪産業集積研究センター (SIARC) 理事				2013年4月～現在	

所 属	経営学部経営学科	職 位	教授	氏 名	宮前 善充
内 容				期 間	
美咲町多世代交流拠点整備事業設計・施工業務公募型プ ロポーザル審査委員会委員				2022年7月25日～2023年3月31日	

所 属	経営学部経営学科	職 位	講師	氏 名	小柳 智裕
内 容				期 間	
日本インテリア学会 アーカイブ化委員会 委員				2018年7月～現在	
玉野市史編さん委員会 副委員長				2022年8月1日～2027年3月31日	

所 属	経営学部経営学科	職 位	講師	氏 名	大塚 祐一
内 容				期 間	
岡山市女性活躍推進協議会 座長				2022年4月～現在	
岡山県人権政策審議会 委員				2022年3月～現在	

所 属	薬学部薬学科	職 位	教授	氏 名	洲崎 悦子
内 容				期 間	
津山洋学資料館 協議会委員				2010年4月1日～2024年3月31日	
日本組織細胞化学会 評議員				2000年～現在	
日本解剖学会 評議員				2006年～現在	
日本バイオイメージング学会 評議員				2003年～現在	
日本バイオイメージング学会 男女共同参画委員長				2005年～2024年	
日本バイオイメージング学会 理事				2013年～2024年	
日本バイオイメージング学会 副会長				2021年～2024年	

所 属	薬学部薬学科	職 位	教授	氏 名	片岡 洋行
内 容				期 間	
薬学教育協議会分析化学系教科検討委員会委員				2003年4月1日～現在	
Analytica Chimica Acta: Editorial Advisory Board member (Elsevier)				2009年1月1日～現在	
Analytical Chemistry Letters: Editorial Board (Vinayak-Graphics)				2011年1月1日～現在	
Journal of Environmental & Analytical Toxicology: Editorial Board Member (OMICS)				2011年4月1日～現在	
日本分析化学会中国四国支部幹事				2011年4月1日～現在	
おかやまバイオアクティブ研究会幹事				2011年4月1日～現在	
Analytical Methods in Chemistry Editorial Board Member (Hindawi)				2011年11月1日～現在	
Editorial Board Member of Chromatography (Japan)				2012年4月1日～現在	
クロマトグラフィー科学会評議員				2012年4月1日～現在	
Editorial Board Member of Journal of Translational Biomarkers & Diagnosis (SciDoc)				2015年10月1日～現在	
Editorial Board Member of Journal of Bioanalytical Techniques (Sciforschen)				2015年10月1日～現在	
岡山県薬事審議会委員、2021年度～副会長				2015年4月1日～現在	
Editorial Board Member of Journal of Biochemistry and Analytical Studies (Sciforschen)				2017年1月1日～現在	
Editorial Advisory Board Member of Journal of Chromatography A (Elsevier)				2018年5月1日～現在	
岡山県後発医薬品の安心使用のための協議会会長				2018年10月1日～現在	
Editorial Board Member (Academic Editor of Analytical Section) of Molecules (MDPI)				2018年11月1日～現在	
Associate Editor of Frontiers in Environmental Chemistry (Frontiers)				2020年1月1日～現在	
岡山県立大学保健福祉学部外部評価委員				2020年12月24日～現在	
日本分析化学会第71年会（2022年9月開催）副実行委員長				2021年6月1日～2022年9月30日	
Molecules' 2022 Young Investigator Award Evaluation Committee				2022年9月1日～2022年11月30日	

所 属	薬学部薬学科	職 位	教授	氏 名	見尾 光庸
内 容				期 間	
Council Member of European Histamine Research Society				2018年5月～2022年9月	
第96回日本薬理学会年会プログラム委員				2022年1月～2022年12月	
第97回日本薬理学会年会組織委員				2022年9月～現在	
日本ヒスタミン学会事務局長				2013年11月～現在	
薬学教育協議会薬理学関連教科担当教員会議委員				2003年度～現在	
日本私立薬科大学協会薬剤師国家試験問題検討委員会薬理学部会委員				2007年度～現在	
Guest Associate Editor for Experimental Pharmacology and Drug Discovery, Frontiers in Pharmacology				2018年10月～現在	
Associate Editor for Anti-inflammatory and Immunomodulating Agents, Frontiers in Drug Discovery				2021年11月～現在	
Review Editor for Inflammation, Frontiers in Immunology				2022年1月～現在	

所 属	薬学部薬学科	職 位	教授	氏 名	中西 徹
内 容				期 間	
岡山県環境放射線等測定技術委員会副議長				2010年 4月 1日～現在	
NPO ヘルスサイエンス地域国際センター理事				2012年 4月 1日～現在	
日本軟骨代謝学会評議員				1999年 3月 1日～現在	
日本生化学会評議員				2005年10月 1日～現在	
硬組織再生生物学会理事				2004年10月 1日～現在	
日本食品衛生学会理事				2013年 3月 1日～現在	
おかやまバイオアクティブ研究会役員・企画委員				2013年10月11日～現在	
主体的学び研究所客員フェロー				2012年 4月 1日～現在	
ASEAN-JAPANゲノム医療研究推進国際会議 代表				2017年 7月 9日～現在	
Texcell Japan Co.Ltd. Research Advisor				2019年 4月 1日～現在	

所 属	薬学部薬学科	職 位	教授	氏 名	塩田 澄子
内 容				期 間	
岡山市文化財保護審議会委員				2017年1月1日～現在	
岡山市社会福祉審議会委員				2017年1月1日～現在	
日本細菌学会中国四国支部会評議員				2018年4月1日～現在	
日本薬学会中国四国支部代議員				2019年4月1日～現在	

所 属	薬学部薬学科	職 位	教授	氏 名	渡辺 雅彦
内 容				期 間	
内閣府食品安全委員会器具・容器包装専門調査会専門委員				2021年10月1日～現在	
内閣府食品安全委員会農薬第三専門調査会専門委員				2022年4月1日～現在	
Associate Editor, Genes and Environment				2020年1月1日～現在	
日本環境変異原ゲノム学会評議員				2016年1月1日～現在	
日本環境変異原ゲノム学会第一編集委員				2016年1月1日～現在	

所 属	薬学部薬学科	職 位	教授	氏 名	工藤 季之
内 容				期 間	
公益社団法人日本技術士会生物工学部会 中国地区幹事				2007年4月1日～2023年6月30日	
公益社団法人日本技術士会中国本部 修習技術者支援委員会委員				2009年1月1日～2023年6月30日	
公益社団法人日本技術士会中国本部 倫理委員会委員				2021年7月17日～2023年6月30日	
公益社団法人日本技術士会中国本部 環境部会副部長				2011年6月23日～2023年6月30日	
公益社団法人日本技術士会中国本部岡山県支部 幹事				2013年7月13日～2023年6月30日	
公益社団法人日本技術士会中国本部岡山県支部 修習技術者支援委員会委員長				2013年7月20日～2023年6月30日	
公益社団法人日本生物工学会 JABEE特別部会委員				2021年6月1日～2023年5月31日	
岡山実験動物研究会 理事				2015年4月1日～2023年3月31日	
大学コンソーシアム岡山 運営委員会委員				2022年4月1日～現在	
大学コンソーシアム岡山 社会人教育委員会委員				2022年4月1日～現在	
中国地域産学官連携コンソーシアム（さんさんコンソ）運営会議委員				2022年4月1日～現在	
岡山・産学官連携推進会議 幹事				2022年4月1日～現在	

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教授	氏 名	北村 佳久
内 容				期 間	
日本薬学会 中国四国支部 幹事				2022年度～	
日本薬学会 中国四国支部 支部代議員				2022年度～	
日本医療薬学会 編集委員会 委員				2020年7月1日～	
日本医療薬学会 代議員				2021年度～	
日本精神薬学会 倫理委員会 委員				2019年4月1日～	
第7回日本精神薬学会 学術集会 実行委員				2022年度～	
日本薬理学会 代議員				2022年度～	
Frontieres in Pain Research Review Editor				2021年度～	

所 属	薬学部薬学科	職 位	教授	氏 名	名和 秀起
内 容				期 間	
岡山市男女共同参画社会推進センター運営委員会委員				2020年7月1日～現在	

所 属	薬学部薬学科	職 位	教授	氏 名	島田 憲一
内 容				期 間	
岡山県薬剤師会薬局委員会委員				2008年4月1日～現在	
岡山市介護認定審査会委員				2013年4月1日～現在	
内閣府食品安全委員会食品安全モニター				2015年4月1日～現在	
岡山県病院薬剤師会実習委員会オブザーバー委員				2016年4月1日～現在	
薬学教育協議会 病院薬局実務実習中国・四国支部 支部委員				2017年4月1日～現在	
薬学教育協議会 病院薬局実務実習近畿支部 オブザーバー委員				2017年4月1日～現在	
一般社団法人 日本食品安全協会 健康食品管理士会 中国支部幹事				2019年10月1日～現在	
一般社団法人 日本食品安全協会 教育協議会理事				2022年4月1日～現在	
薬学教育協議会 病院薬局実務実習中国・四国支部 第三者委員会委員長				2022年4月1日～現在	
一般社団法人 日本食品安全協会 健康食品管理士会 中国支部 支部長				2022年4月1日～現在	
日本災害医療薬剤師学会渉外委員会委員				2022年4月20日～現在	

所 属	薬学部薬学科	職 位	准教授	氏 名	加地 弘明
内 容				期 間	
薬学共用試験センター OSCE実施委員・モニター員				2015年4月～現在	
岡山県薬剤師会 理事				2017年6月～現在	
薬学教育協議会 教科担当教員会議 薬学と社会 担当教員				2018年4月～現在	
私立薬科大学協会 国家試験問題検討委員会 実務部会担当教員				2018年4月～現在	
岡山県薬剤師会 薬局実習委員会 委員・副担当理事				2018年4月～現在	
岡山県薬剤師会 地域薬学ケア専門薬剤師研修調整委員会 委員				2020年4月～現在	
岡山県薬剤師連盟 総務委員				2021年6月～現在	
岡山県薬剤師会 県民啓発委員会 担当理事				2021年6月～現在	
日本社会薬学会 代議員				2022年7月～現在	

所 属	薬学部薬学科	職 位	准教授	氏 名	毎熊 隆誉
内 容				期 間	
日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会理事				2019年3月～現在	
日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会第16回大会大会長				2021年10月～2022年11月	
薬学共用試験OSCEモニター員				2017年4月～現在	
一般財団法人タイオン奨学基金 評議員兼選考委員				2017年4月～現在	
岡山県病院実務実習委員会 第8グループ（岡山南地区）担当者				2008年4月～現在	
岡山県病院実務実習委員会 第13グループ（岡山北地区）担当者				2020年1月～現在	
特定非営利活動法人 岡山SP研究会 顧問				2022年4月～現在	

所 属	薬学部薬学科	職 位	准教授	氏 名	齋藤 啓太
内 容				期 間	
岡山市薬剤師会主催薬物乱用防止推進委員会				2018年～現在	

所 属	薬学部薬学科	職 位	講師	氏 名	阿藤 寛明
内 容				期 間	
岡山県薬剤師会IT特別委員				2021年7月～現在	
健康食品管理士会中国支部事務局長				2022年12月～現在	

所 属	薬学部薬学科	職 位	講師	氏 名	山田 陽一
内 容				期 間	
岡山市薬剤師会理事				2021年5月～現在	

所 属	薬学部薬学科	職 位	講師	氏 名	河野 奨
内 容				期 間	
岡山県薬剤師会 薬局実習委員				2021年6月1日～現在	

所 属	薬学部薬学科	職 位	講師	氏 名	田坂 祐一
内 容				期 間	
岡山県薬剤師会 安全管理特別委員会 委員				2019年7月10日～現在	
日本医薬品安全性学会 社員（評議員）				2020年1月1日～現在	
岡山県立岡山城東高等学校 学校薬剤師				2020年4月1日～現在	
岡山市学校薬剤師会 理事				2020年6月12日～現在	
日本病院薬剤師会 医薬情報委員会 特別委員				2021年2月6日～2022年6月17日	
日本病院薬剤師会 令和3年度 学術第5小委員会 委員				2021年7月1日～2022年6月30日	
日本病院薬剤師会 医薬情報委員会 委員				2022年6月18日～現在	
日本病院薬剤師会 令和4年度 学術第3小委員会 委員				2022年7月1日～現在	

所 属	薬学部薬学科	職 位	助教	氏 名	石崎 厚
内 容				期 間	
岡山市薬剤師会主催薬物乱用防止推進委員会				2019年～現在	

所 属	薬学部薬学科	職 位	助教	氏 名	出石 恭久
内 容				期 間	
岡山市薬剤師会 医療介護連携委員会 委員				2022年4月1日～現在	
岡山市南区西地域個別ケア会議 アドバイザー				2022年4月1日～現在	

所 属	薬学部薬学科	職 位	助教	氏 名	吉井 圭佑
内 容				期 間	
岡山県災害薬事コーディネーター				2020年4月～現在	
岡山県薬剤師会 社会保険委員会 委員				2021年7月～現在	
岡山県災害薬事コーディネーター 統括災害コーディネーター				2022年4月～現在	
日本食品安全協会 健康食品管理士会 中国支部幹事				2022年6月～現在	

所 属	幼児教育学科	職 位	教授	氏 名	土田 耕司
内 容				期 間	
瀬戸内市次世代育成支援対策推進協議会委員				2022年4月1日～2023年3月31日	
岡山県保育士養成協議会養護実習委員会委員長				2021年4月1日～2023年3月31日	
日本社会福祉学会中国・四国ブロック委員				2022年4月～現在	

所 属	短期大学幼児教育学科	職 位	教授	氏 名	柴川 敏之
内 容				期 間	
岡山県新進美術家育成「I氏賞」推薦委員				2022年4月1日～2023年3月31日	
広島県博物館協議会 委員				2022年4月1日～2023年3月31日	

所 属	短期大学幼児教育学科	職 位	准教授	氏 名	三好 年江
内 容				期 間	
岡山県子ども・子育て会議委員				2022年2月19日～2024年2月18日	
岡山県保育士養成協議会保育実習委員会委員長				2021年4月1日～2023年3月31日	
吉備中央町子ども・子育て会議委員				2023年2月2日～2025年2月2日	
奈義町子育て等支援施設なごチャイルドホーム子育て支援事業 事業アドバイザー				2017年4月1日～現在	

所 属	短期大学幼児教育学科	職 位	准教授	氏 名	荊木 まき子
内 容				期 間	
日本教育心理学会編集委員				2020年1月1日～2022年12月31日	
日本コミュニティ心理学会 副編集委員長				2021年4月1日～現在	
日本コミュニティ心理学会第25回大会 大会長				2021年12月1日～2023年3月31日	
岡山心理学会第70回大会 大会準備委員				2022年11月26日	

所 属	短期大学幼児教育学科	職 位	准教授	氏 名	松本 希
内 容				期 間	
岡山県女子体育連盟事務局				2022年4月1日～現在	
岡山県スポーツ少年団専門委員会				2021年5月～現在	

所 属	短期大学幼児教育学科	職 位	准教授	氏 名	鎌田 雅史
内 容				期 間	
日本学校心理士会岡山支部 幹事				2022年4月1日～2024年3月31日	

所 属	短期大学幼児教育学科	職 位	講師	氏 名	山下 世史佳
内 容				期 間	
日本大衆音楽祭全国大会スーパーシニア・シニア部門 審査員長				2022年10月23日	
日本大衆音楽祭岡山県大会スーパーシニア・シニア部門 審査員長				2022年6月26日	
日本音楽療法学会全国大会 実行委員				2022年9月15日～18日	
岡山県音楽療法研究会 常任理事				2016年4月1日～現在	

所 属	短期大学生生活実践科学科	職 位	教授	氏 名	大友 達也
内 容				期 間	
一般社団法人日本レセプト学会 理事長				2017年10月1日～現在	
一般財団法人日本能力開発推進協会 理事				2015年4月1日～現在	
一般社団法人日本レセプト学会 学会認定資格準備委員 会委員長				2021年6月1日～現在	
一般社団法人岡山県医師会医療秘書運営委員会 委員				2019年4月1日～現在	
全国医師会医療秘書学院連絡協議会 委員				2021年7月1日～現在	

所 属	短期大学生生活実践科学科	職 位	講師	氏 名	脇谷 祐子
内 容				期 間	
日本流通学会 会計監事				2020年10月1日～2023年9月30日	
日本流通学会 北海道東北部会 幹事				2020年10月1日～2023年9月30日	
北海道農村文化協会 事務局次長				2021年10月30～現在	
北海道地域農業研究所 協力研究員				2022年4月1日～現在	

所 属	就実大学薬学部附属薬局	職 位	管理薬剤師	氏 名	松本 かおり
内 容				期 間	
岡山県薬剤師会 一般用医薬品特別委員会 委員				2021年7月1日～現在	

所 属	就実大学薬学部附属薬局	職 位	薬剤師	氏 名	西山 典子
内 容				期 間	
岡山県薬剤師会 薬局実習委員会 委員				2019年7月10日～現在	

『地域と歩んだ就実の軌跡—地域貢献報告書』

第 15 号

2023 年 4 月 10 日

発 行 就実大学・就実短期大学 地域貢献委員会
〒703-8516 岡山県岡山市中区西川原 1-6-1
Tel (086) 271-8111 (代)

発行責任者 地域貢献委員長 工藤 季之

印 刷 株式会社アネスト